

2014年度通常総会開催通知

早稲田電気工学会
会長 大附 辰夫

拝啓、時下益々ご清栄の段お慶び申し上げます。

さて、標記通常総会を下記の通り開催致しますので、万障お繰り合わせの上、会員お誘い合わせてご出席いただき、EWEの運営・活動などについてご意見を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 2014年 5月23日(金) 午後 6時～7時
2. 場 所 早大西早稲田キャンパス55号館 1階 第2会議室
3. 議 題 (1) 2013年度事業経過報告および決算
(2) 2014年度事業計画および予算
(3) その他
4. 懇親会 早大西早稲田キャンパス55号館 2階
竹内ラウンジ
5. 懇親会費 3,000円

出席の方は、5月7日(水)までにご連絡くださるようお願いいたします。

以上

〒169-8555 東京都新宿区大久保 3 - 4 - 1
早稲田大学西早稲田キャンパス内
早稲田電気工学会 事務局
電話/FAX：03-3232-5768 (直通)
E-mail：jimukyoku@ewe.or.jp
URL：http://www.ewe.or.jp/

もくじ

○巻頭言「EWEを支える学問分野の広がり」	3
○追悼「藤田雄五さんを偲んで」	5
○講演「コンピュータ将棋の現状～トッププロ棋士に迫ってきたコンピュータ将棋～」	7
○ニュース「情報通信学科」開設	15
○退任に際して	17
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授	堀越 佳治
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授	松本 隆
表現工学科／表現工学専攻教授	山崎 芳男
○教員の横顔「情報通信学科」	23
○若手OBの活躍「『暮らし』を変える技術と言葉」	26
明治大学理工学部電気電子生命学科准教授	工藤 寛之
○修士課程修了にあたって	28
電気・情報生命専攻	宇留野 彩 (小林研究室)
情報理工学専攻	長田 弦 (前原研究室)
ナノ理工学専攻	岡田愛姫子 (庄子研究室)
○地方本部だより	31
北海道地方本部／九州地方本部／東海地方本部／中国地方本部／関西地方本部	
○クラス会だより	37
電気通信学科1947年(昭22)卒、電気通信学科1951年(昭26)卒、 電気工学科1953年(昭28)卒、電気通信学科1956年電(昭31)卒、 早大三一会1956年(昭31)卒、電気通信学科1960年(昭35)卒、 電気工学科1962年(昭37)卒、電気通信学科1966年(昭41)卒、 電気工学科1971年(昭46)卒	
○学生支援基金報告	46
ETロボットコンテスト アーキテクト部門 東京地区大会報告	
○EWE活性化委員会2013年度活動報告	47
○EWE三月会2013年度活動報告	48
○学生会報告「研究室対抗ソフトボール大会」	49
○2013年度修士論文一覧	50
○2013年度学部卒業生一覧	62
○2013年度博士号取得者一覧	67
○受章・褒章	68
○2013年度就職状況	72
電子光システム学科／電子光システム学専攻教授	柳澤 政生
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授	岡野 俊行
情報理工学科／情報理工学専攻教授	上田 和紀、高畑 文雄、前原 文明
○2013年度就職先一覧	78
○2013年度評議員委嘱状況	82
○2013年度終身会費納入者一覧	85
○寄付者、逝去者一覧	86
○事務局だより	87
○編集後記	88

巻頭言

EWEを支える学問分野の広がり

早稲田電気工学会会長 大附 辰夫



早稲田電気工学会（EWE）は、一昨年（2012年）創立100周年を迎えたことを期して、「EWE 100周年宣言」（会報54号を参照）を提唱した。前回の評議員会・総会では、「早稲田電気工学会規則」の改定が行われたが、その第3条の記述（下記）は「100周年宣言」の精神を反映している。

（目的）

第3条 本会は会員相互の親睦をはかり、あわせて「電気工学」を基盤とする分野での学術ならびに技術の進歩発展をはかり、文化の向上と産業の発展に寄与することを目的とする。

EWEは100年を超える歴史を持つ電気系学科の同窓会組織であり、1908年の理工科の開設と共に設立された「電気学科」——1913年に「電気工学科」と改称——を起源とし、最初の学生が卒業した1912年に創設された。当初の30年間は「電気工学科」1学科によって運営されてきたが、1942年の「電気通信学科」の設立後——両学科の名称変更は度々行われたが——EWEは2学科協同の同窓会組織へと発展した。

両学科が扱う専門領域が幅広く拡大したことに伴い、1972年頃から、学科名の変更、関連学科の新設、教員組織の合従連衡などが頻繁に実施され、様々な組織変革を経て、2014年3月現在、EWEは次の3学科・3専攻によって運営されている。

- ・電気・情報生命工学科 / 電気・情報生命専攻
- ・情報理工学科 / 情報理工学専攻
- ・電子光システム学科 / 電子光システム専攻

新しい年度に入る本年4月には、大学院国際情報通信研究科（GITS）を交えた大規模な再編が実施され、基幹理工学部の中に「情報通信学科」が新設される。また、「情報理工学科」と「情報通信学科」の共通の大学院専攻として、現「情

報理工学専攻」を包含した「情報理工・情報通信専攻」が新設される。すなわち、2014年度からEWEは学部の4学科、大学院の3専攻によって運営されることになる。

1996年に、「電気工学科」が「電気電子情報工学科」と名称変更して以来、早稲田大学の中に「電気工学」というキーワードを持つ学科は存在しない。EWEが創設された100年前は、所謂「発送配電」に関する原理と技術が「電気工学」の中心であった。その後「電気通信学科」が設立された1940年代頃から、電子、制御、計算機、通信など、電気工学から派生した学問分野が目覚ましい成長を遂げた。このことは、本会設立当初、「電気をエネルギーとして利用する」ことを前提としていた「電気工学」が、「電圧の変動を信号(情報)として利用する」という立場から革新的な進歩を遂げた結果と考えられる。さらに最近は、電気系の研究者が環境や生命など学際的な分野に進出するようになり、今やEWEを構成する研究室の数は50を超え、カバーする科学技術分野の裾野が大きく広がっている。4学科・3専攻に跨る幅広い学問分野の研究室が、本会規則第3条にある「電気工学」を基盤とするという意味で一つに纏まってEWEを運営している。

2013年度にEWEが実施した年間のイベントを振り返ると、先ず、活性化委員会によって企画・運営された活動として、例年の形態に新しい趣向を盛り込んで、

- ・EWE先輩と学生との交流会（参加企業：30社、参加学生：約280名）
- ・見学会：新宿副都心地域冷暖房施設

が実施され、学生の進路選択のために有益であった。恒例の**研究室対抗ソフトボール大会**や**講演会「トッププロに迫ってきたコンピュータ将棋」**も実施され、例年に増して盛り上がりを見せた。「EWEウェブニュース」も、例年に引き続き、大学の状況や会員の活躍をタイムリーにお知らせできたと思う。さらに、昨年新設された「**学生支援基金**」に対しても、本年度は初めて応募（3件）があり、理事会の選考を経て「ETロボットコンテスト」に対して支援金が拠出された。

EWEが本年度実施したイベントは学生会員への支援に重点を置いているが、これらの活動は、学生会員に加えて、現役の社会人として活躍している世代や企業活動から引退した世代に亘って、世代を超えた**会員相互の親睦をはかる**という本会規則の精神に沿ったことでもある。

現在EWEは学生会員へのサービスに力を入れ、彼らの卒業後の母校愛に期待して求心力を高めるという努力を続けている。一方、社会人となった正会員の会費納入の意欲を高めることが今後の課題であるが、ホームページやウェブニュースに磨きをかけることに加えて、EWEの活動を学外へ発信するための様々な方向への努力が必要であろう。

追悼

藤田雄五さんを偲んで

アンリツ（株） 元社長 塩見 昭



第30代早稲田電気工学会会長 藤田雄五さんは1月19日逝去されました。昨年9月に卒寿を迎えられ90歳でした。謹んでお悔やみ申し上げます。藤田さんは、EWE会長として、親睦と事業の相補成長に尽力されました。また、格調高い学術にふさわしい充実した裏方を志向しておられました。

藤田さんは、昭和22年早稲田大学理工学部電気通信科を卒業され、安立電気株式会社（現アンリツ）に入社されました。その後、昭和41年計測器事業部技術部長、同49年計測器事業部長、同50年取締役を経て同59年代表取締役社長に就任されました。

昭和22年通信省電気試験所は、電話機の通信品質の改善を図るため、電話機製造数社に対し技術コンクールを行いました。藤田さんの試作品は性能第1位の評価を得た傑作で、4号電話機として広く全国に普及しました。

藤田さんは、日本電信電話公社（現NTT）の要請を受け、通信の大容量化・品質向上に必要な各種計測器の開発に技術陣の総力を結集しました。同軸ケーブル回線用、カラーテレビ伝送網用、PCM用、衛星通信用、マイクロ波回線用、光通信用測定器などです。我が国通信の大飛躍はNTT様の強力な指導力の賜であることは論を待ちませんが、それを陰で支えることができたのは、藤田さんおよびアンリツにとって幸運なことでした。藤田さんのこのような功績に対し、科学技術長官賞、東京都知事表彰、紫綬褒章、藍綬褒章、勲三等瑞宝章が授与されました。

「それは世界初か？ 世界最高か？」私たちの開発提案に対し藤田さんから発

せられる言葉は常にこれでした。世界初か世界最高でなければ開発の承認が得られませんでした。NTT様に育てられた計測技術をもって、折からの日本政府の輸出振興策とも相まって世界市場へ乗り出しました。昭和54年には米国電話会社(AT&T)からマイクロ波測定装置の大量受注に成功しました。光通信用測定器については、欧米の主要通信会社にほぼ独占的に納入しました。当時は「光のアリッツ」と言われたものです。

藤田さんは自らの経営観、人生観を常々書き物しておられました。総計3000頁を超えたそうです。そのエッセンスを平成13年「仕事場の人生観」として一冊の本に纏めました(非売品)。今なおアリッツに受け継がれている経営理念や「人は無限の階段を登ることができる」という藤田哲学など内容が豊富で、後輩にとって良い教科書となっています。

私たち後輩は藤田さんのことを「オヤジ」と呼んで慕っていました。部下を徹底的に可愛がり、指導してくれたからです。しかし、彼の若い頃はいたずら好きの悪童だったようです。渋谷の忠犬ハチ公像に跨り「ハイシドウドウハイドウドウ」をしたり、夜になると商店街の看板を失敬し自宅の門前に並べたり、赤い郵便ポストを数メートル動かしたりと武勇伝が絶えませんでした。それが円熟期になると、中国の孔子を



1991年EWE会長の頃の藤田氏

「孔子様」と呼び敬慕するようになり、「論語」の研究もされていたようです。何とも起伏の大きい堂々たる人生でした。私が見るところ、藤田さんと孔子の共通点は、酒をこよなく愛したことではないかと思います。今頃お二人はあちらで酒談議をしていることでしょう。ご冥福をお祈りします。

講演

コンピュータ将棋の現状 —トッププロ棋士に迫ってきたコンピュータ将棋—

早稲田大学 政治経済学術院 教授 瀧澤 武信



0. 講演者紹介

瀧澤武信は早稲田大学政治経済学術院教授、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター所長、早稲田大学ゲームの科学研究所長、コンピュータ将棋協会会長、金子知適氏は東京大学大学院総合文化研究科准教授、コンピュータ将棋プログラム「GPS将棋」のメインプログラマである。

1. プロ棋士との対局（第2回電王戦）

2012年1月に行われた「第1回電王戦」で米長邦雄永世棋聖（引退棋士、公益社団法人日本将棋連盟会長、残念ながら2012年12月18日ご逝去）と2011年の「第21回世界コンピュータ将棋選手権」優勝プログラムの「ボンクラーズ」（伊藤英紀氏作）の対戦で、「ボンクラーズ」が勝ち、2013年に開催された「第2回電王戦」では、現役プロ棋士5名と2012年の「第22回世界コンピュータ将棋選手権」上位5プログラムの対抗戦を行うこととなった。対局日は2013年3月23日から4月20日までのいずれも土曜日で、対局者は以下の通りである：3月23日 阿部光瑠四段（先）VS. 習甦、3月30日 Ponanza（先）VS. 佐藤慎一四段、4月6日 船江恒平五段（先）VS. ツツカナ、4月13日 Puella a（先）VS. 塚田泰明九段、4月20日 三浦弘行九段（先、対局時は八段）VS. GPS将棋。また、対局場はいずれも将棋会館 特別対局室、持時間は各4時間（1分未満切り捨て）、主催は株式会社ドワンゴと公益社団法人 日本将棋連盟である。

筆者はプロ棋士側が4勝1敗で勝ち越すと予想していたが、結果は驚くべきことにコンピュータ将棋側が3勝1敗1分と勝ち越した（写真1は第1局対局開始時、図1は第4局終了局面。どちらの王にも手がかりがなく、駒が24点以上ある*ためルールにより持将棋、引分となった。写真2は第5局対局終了時、写真3は第5局終了後の記者会見の様様）。内容的には第2局と第3局はプロ棋士の

逆転負け、第4局はプロ棋士側が必敗の将棋を粘って引き分けたので、プロ棋士側の3勝2敗でもおかしきはなかったが、いずれにしろ、A級棋士の三浦九段に勝っていることから、まだ追いついていないにしろプロトップ棋士に迫ってきたとは言えるだろう（表1）。



写真1 第2回電王戦第1局 対局開始時

▲阿部光瑠四段（右）△習甦（竹内章氏・左）

2013年4月20日 将棋会館、写真提供：公益社団法人日本将棋連盟

*盤上の駒および持ち駒を、王：0点、飛、角、竜、馬：各5点、その他の駒：各1点として数える。

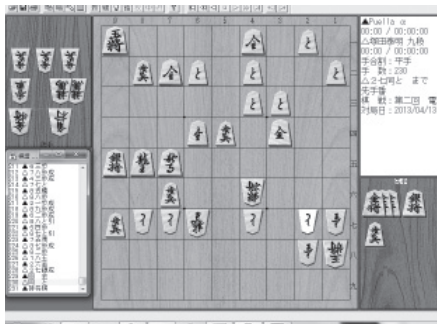


図1 第2回電王戦第4局

▲puella α △塚田泰明九段

2013年4月13日 将棋会館

表1 第2回電王戦結果

2013年3月23日（土）	○阿部光瑠四段（先）VS. ●習甦
2013年3月30日（土）	○Ponanza VS. ●習甦
2013年4月6日（土）	●船江恒平五段（先）VS. ○ツツカナ
2013年4月13日（土）	△Puella α（先）VS. △塚田泰明九段
2013年4月20日（土）	●三浦弘行八段（現九段、先）VS. ○GPS将棋



写真2 第2回電王戦第5局 対局終了時

▲三浦弘行九段（手前）△GPS将棋（金子知道氏・奥）

2013年4月20日 将棋会館、写真提供：日本将棋連盟



写真3 第2回電王戦終了後の終了後の模様

右側：プロ棋士 左側：コンピュータ将棋開発者

中央：右から谷川浩司 日本将棋連盟会長、

川上量生(株)ドワンゴ取締役会長、瀧澤

2013年4月20日 将棋会館、写真提供：日本将棋連盟

2. コンピュータ将棋の技術

2.1 基本技術

コンピュータ将棋の基本技術（コンピュータ将棋の原理）を説明する。図2はミニマックス原理と呼ばれているもので、Aが読みを開始する局面である。簡単にするために、Aという局面では手が3つあると仮定し（Aから3つの線がでており、B、C、Dという3つの手）Aから例えばBへ自分の番で進めると、今度はBから3つの線がでており、相手側にも3つの手（EとFとG）があり、Bから例えばEに進むとさらに今度は自分の手番として、Eから2つの手（aとb）があると仮定している。これをゲームの木という。実際はもとの局面に戻ることがあるため、木ではなくネットワーク状になるが、単純化すると「木」のような状態になる。但し、「木」と言っても上が根で下が枝と葉である。

一番下に書いてある「やや優勢」とか「互角」というのは、自分の方から見ての評価で、一番良いのが「勝ち」、すなわち詰ますと「勝ち」、その次が「勝勢」、それから「優勢」「やや優勢」「互角」「やや劣勢」「劣勢」「敗勢」「負け」である。

そうすると、読みの中で、AからBに自分が1手目を指し、BからEに相手が2手目を指し、Eという局面に進むと、ここは自分の手番である。自分の手番として3手目にa「やや優勢」とb「優勢」の手があるとすると、どちらを選ぶかという、それはもちろんいい方を取るの、b「優勢」という局面になる手を取る。それから、もしFという局面にいくとc「互角」とd「やや劣勢」であるが、自分の手番なのでc「互角」の方を取る。それからGという局面では、e「勝勢」とf「互角」があるとすれば「勝勢」を選ぶ。というわけで、EとFとGの局面については次の一手としてそれぞれb、c、e、という局面になる手を選ぶことになる。

そこでAからBに自分が1手目を指して、Bという、これから相手が2手目を指すこの局面で考えると、3つ手があるが、合理的に考えると、BからEを選べば自分の方が「優勢」になる。Fを選べば「互角」になる。Gを選べば「勝勢」になる。そうすると、Bは相手の手番なので、相手の方が選ぶであろう中でいい手を取らなければいけないので、「優勢」と「互角」と「勝勢」だったら、相手は3つの中から選べるので、当然のこと

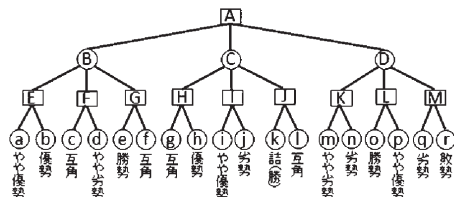


図2 ミニマックス原理

ながら相手の方にいいものは自分にとって不利なものであるので、「互角」になるような手、つまりFを相手は選ぶに違いない、となる。

そうすると、自分の方からいって、Bを選べば相手側はF→Cの「互角」の手になる。Cを選べば相手側はI→iの「やや優勢」という手を選ぶことになる。なぜかという、自分はHの局面にいったらh「優勢」を選ぶ、Iにいったらi「やや優勢」を選ぶ、Jにいったらk「詰（勝）」を選ぶ、ただ、相手からするとこの3つで自分に一番不利な「やや優勢」を選ぶはずである。もしDを選べば同様に、相手はK→m「やや劣勢」、L→o「勝勢」、M→q「劣勢」を選ぶが、相手側からは自分にとって一番不利なM→q「劣勢」を選ばれることになる。

結果としてBを選べば相手側と「互角」、Cを選べば相手側より「やや優勢」、Dを選べば相手側より「劣勢」の局面になるということなので、このAの局面ではどれを選べば良いかという、Aは自分の手番なので当然Cを選べば良いことになる。Cを選べば相手がどんなに頑張っても「やや優勢」しかない、自分はこの「やや優勢」を選びさえすれば「やや優勢」になる。Bをもし選ぶとどんなにがんばっても相手と「互角」になってしまうリスクがあり、Dを選ぶとどんなにがんばっても「劣勢」になってしまうリスクがある。そうならないように最低でも「やや優勢」でいけるCを選ぶ。このような選び方をするを「ミニマックス原理」という。なお、この木には30のノード（局面）が登録され、そのうち、18のノードが評価される。

図3は図2と同じ意味の図だが、形が異なっている。どこが異なるかという、Bを選んだとして、まず3つ手があって、Eから調べていくが、その時にa「やや優勢」とb「優勢」があるとする、上で述べたように、ここは自分の手番なので、い

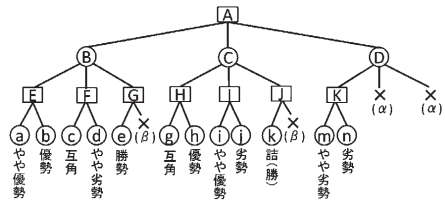


図3 αβ法

い方を取りb「優勢」を取る。Eを選んだ時には、「互角」と「やや劣勢」なので「互角」を取るようになるが、そうすると、Bからの指し手の選択は相手側としては「互角」の方がいいということなので、Fの方を当然選んでくる。そんな時にGを選んだとすると、最初に自分の方に「勝勢」という手がある。つまりGを選ぶと今度はGから出る線は自分の手番を表すので、「勝勢」と「互角」があれば「勝勢」を選ぶが、「勝勢」を選んだ瞬間に何が起るかという、Gは相

手は選ばないということである。なぜかという、相手が[G]を選ぶともしこの⑥というのが勝勢であることが分かっている時に、もう一個の手が、勝勢よりもっといい、つまり勝ちであったとすれば自分は当然勝ちを選んでしまい、この手([G])は相手として選ぶことはあり得ない。つまり[F]を選べば「五角」になるのに、[G]を選ぶと「勝ち」になってしまうか、あるいはこれが「勝勢」より悪い時であれば、当然「勝勢」を選ぶので、少なくともこれは自分にとって勝勢が選べるということは相手はこの手を選んで負けに近づいてしまうわけなので、相手が[G]を選ぶことはない。したがって、この手は選ばない。すなわち、この「勝勢」が一個見つかった時点で他の手は一切読む必要がない。すなわち、⑥の隣の(β)から先は一切読む必要が無いということがわかる。

同様に、⑥という局面から[J]を選ぶとすると、[H][I]では自分からみると「やや優勢」ぐらいにしかならないのに、[J]を選ぶと勝利に最も近い「詰め」の手があるので、この段階で(β)以降の手は全く読む必要がない。つまり、自分の番なので詰まして勝てる手があれば、この手([K])を選ぶので、相手は絶対[J]は選ばない。ということは、[J]の(β)以降は読まなくて良いことになる。一個良い手が見つかったら読まなくていい。一個良い手というのは、⑥から進む3手というと、相手側としては⑥五角があるのに[G]にしたらもっと自分の側に(すなわち相手の相手の側に)良い手があるので他の手は読む必要がない。これをカットすると言う。読まないで、つまり[G]の(β)以降は何も考えなくてカットして良いということになる。

同様に⑦という局面にくと、相手が[K]を選ぶと、自分としては、「やや劣勢」か「劣勢」で選ぶと「やや劣勢」の方がいいわけであるが、これが選ばれたとしても、それは他にもっといい手が(⑥を選ぶと、やや優勢になることが分かっている)ので、こちらを自分が選んでも、相手に[K]の手を選ばれた瞬間に、もういくら頑張ってもやや劣勢しか選べない、ということは、他がもしもすぐ自分にはいい手があったとしても相手がこれを選ぶはずが無いので、一個悪い手が見つかった瞬間に相手側から言って他の手はもう考えなくていい。もっと自分にとっていい手があったとしても、考えなくても、これでもう十分相手にとっては良い状況なので、選ぶ必要が無い、というわけで、(a)は読まなくて良いことになる。とすると、これもカットできることになる。

専門用語では、自分の手を読まなくてよくなることを β カットと言う。相手の手を読まなくて良いことを a カットと言う。そのことによって何が変わるかと言

うと、基本的な形で図2ではこの一番下のところの㉑から㉒まで数えると18個あり、18は評価しないとイケなくて、登録されている局面の数が全部で30ある。それに対して図3では、評価は12だけで良く、登録されている局面数も22で、最初の一手としては同じ手を選ばれる。

このように読むことによって、読みを省くことが出来る。逆に言うと余裕が出来るので、同じだけ読んでいいのだったらもう少し詳しく読むことが出来る。この方法が、理論的に優れている。ところが順番が上手く並んでいると、これよりもさらに少ないノード（たったの8ノード）を評価することによって、同じ手を選ぶことが出来る。

図4は図3と並び方が異なり、図3で2番目にあったものを最初に読むことにして、並び方も若干変えると、それぞれの局面で一番良い手が最も左にくるようにして順番に読んでいくことによって、カットするものが増え、全く同じ手を選ばれるが、8ノードだけ評価すれば良くなり、登録されるノードも16となる。これは並び方が良いからである。コンピュータ将棋というのはどこで強さが決まるかという、この並び方でほぼ決まる。今、いろいろなソフトが努力しているのはどういうことかという、この並び方が初めから理想的に並べばもちろん良いが、それは結果論的に出てくるものだから、理論的に最適なものに最初から並べることは一般には出来ないが、これに近似的に並べることは出来るだろうという仮定が出来る。というのは例えば、この2手目でもって仮に局面評価が出来ればかなり高い確度で下の方の局面と同じような評価が出来るのであれば、2手目を良い順に並べることによって、理想の並びにかなり近づけるのではないだろうか、そういうようなことが考えられるが、その並び方についていろいろなやり方で工夫がなされており、ここがいまの重要なポイントになっている。

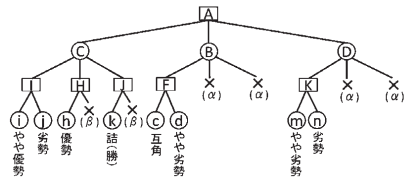


図4 $\alpha\beta$ 法（効率が良い場合）

2.2 コンピュータ将棋の技術

2.1で述べた $\alpha\beta$ 法の外、詳細な説明は省く（参考文献 [1] [2]）が、反復深化、トランスポジションテーブル、Futility枝刈り、null-move枝刈り、singular拡張、静止探索などがあり、他に詰将棋の研究で得られた証明数探索などがある。

さらに、コンピュータ将棋の最新技術として、鶴岡慶雅氏らが開発し「激指」に採用した実現確率探索、保木邦仁氏が開発し「Bonanza」に採用した評価関数のパラメータの自動調整、田中哲朗氏、金子知適氏らが開発し「GPS将棋」に採用した並列探索（大規模クラスタ）、伊藤毅志氏、小幡卓弥氏らが開発し「文殊」に採用（その後「あから2010」でも採用）した合議がある。激指の「実現確率探索」は、その後チェスで「LMR（Late Move Reduction）」が発明されたが、それとほぼ同等のアルゴリズムであり、将棋の方が早かったことで有名である。また、Bonanzaの「評価関数の自動調整」は、「なぜうまくいくのか良くわからないが、人間の職人技で良い結果が得られるものは、統計的に処理することで、人間の手法と異なる方法かもしれないが、同じような結果が得られる」という情報処理の成果の事例となった。

将棋などのプログラムの場合、並列計算の効率はあまり良くないことが知られており、700台繋いでも、1台の20数倍の能力しかない、将棋の場合、局面当たりの「可能な手」の数は平均80であるから何も工夫しないと80倍の能力で1手だけ先読みが深くなるが、「GPS将棋」は三浦九段との対局で4手深く読めたそうであるので、非常に効率が良いものになっていることが分かる。

写真4にGPS将棋のクラスタを構成するPCの一部を示す（第22回世界コンピュータ将棋選手権の際に撮影されたもの）。



写真4 GPS将棋を構成するクラスタの一部
写真提供：GPS将棋開発チーム

3. コンピュータ将棋略史

コンピュータ将棋は1974年11月に瀧澤らの研究グループにより開発が始まった。1986年には東京農工大学の小谷善行教授、瀧澤らで「将棋プログラムの会」を立ち上げ、翌年に「コンピュータ将棋協会（CSA）」と改名した。1990年にCSA主催で「第1回コンピュータ将棋選手権」を開催し、2001年に「世界コンピュータ将棋選手権（WCSC）」に改名し、2013年には早稲田大学国際会議場で「第23回世界コンピュータ将棋選手権」を開催した。第24回（2014年）は木更津かずさパークで開催の予定である。

この選手権には海外からも参加者がおり、これまで、アメリカ、イギリス、オ

ランダ、北朝鮮、フィンランド、ドイツ、台湾からの参加があった。第23回にはアメリカから「無明4」(David Wada氏)が参加した。

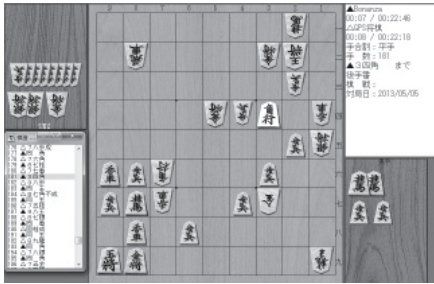


図5 ▲Bonanza △GPS将棋(1)

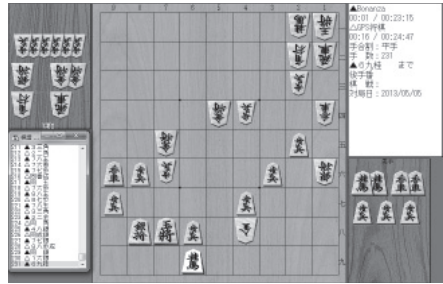


図6 ▲Bonanza △GPS将棋(2)

第23回世界コンピュータ将棋選手権 決勝 早稲田大学国際会議場 2013年5月5日

第23回世界コンピュータ将棋選手権の優勝決定戦となった「Bonanza」と「GPS将棋」は「GPS将棋」が勝勢であったが最後に時間切れ負けとなった(図5、図6)。

4. まとめと今後の展望

1974年11月に筆者らが開発に着手してから39年、ついにプロトップも視野に入った。5年以内にトッププロ棋士と並ぶのではないと思われる。どのように決着をつけるのがいいかが現実の問題となった。考えられる解として、プロの棋士の研究の道具とすることで、より高みを目指すということがあげられる。既に、2013年の名人戦第5局(▲羽生三冠△森内名人(勝))で森内名人の新手△37銀は、「ponanza」が指した手を研究した成果である。

なお、2014年3月～4月に開催される「第3回電王戦」であるが、これは一種のハンディ戦であり、これでプロ棋士とコンピュータ将棋の対戦の決着がつくという性質の試合ではないが、ハンディを貰う以上、プロ棋士が負けるわけにはいかないの、勝負としては面白いかもしれない。

参考文献

- [1] コンピュータ将棋協会(監修)、瀧澤武信、金子知適、他：「人間に勝つコンピュータ将棋の作り方」、技術評論社、2012.9.29.
- [2] 瀧澤武信：「コンピュータ将棋の現状」(早稲田講義録 第20巻第1号)、WASEDA サポーターズ倶楽部、2013.11.1.

ニュース

2014年4月 基幹理工学部情報通信学科開設

理工学術院 教授 亀山 渉

理工学術院では、情報系の教育研究の組織再編について準備をして参りましたが、この度、文部科学省への認可申請が認められ、2014年4月より、理工学術院基幹理工学部内に「情報通信学科」を、並びに、基幹理工学研究科内に「情報理工・情報通信専攻」を新設することとなりました。「情報通信学科」には、基幹理工学部情報理工学科の一部の教員と大学院国際情報通信研究科の一部の教員が参画し、通信ネットワーク、情報システム、メディアコンテンツの3分野を軸に、早稲田大学の「通信」に関する教育研究の伝統を引き継ぎ、情報通信の国際性を重視した教育研究活動を進めて行く予定です。また、「情報理工・情報通信専攻」は、情報理工学科と情報通信学科の共通の大学院専攻として、情報科学分野、情報工学分野、及び情報通信分野を広くカバーするものとなります。

去る2013年8月3日には、西早稲田キャンパスにおいて、この新学科及び新専攻、並びに、入試制度改革・副専攻制・国際コースなどの基幹理工学部・基幹理工学研究科の新しい取り組みのご説明を差し上げるため、EWE会員向けの説明会を開催致しました。当日は、真夏の暑い日にもかかわらず、約30名の方々にお集まり頂きました。説明会では、まず、大石進一基幹理工学部長・研究科長より開会の挨拶があり、引き続き、白井克彦前総長及び山川宏理工学術院長からご挨拶とともに、情報系再編に至るまでの経緯と、情報系再編が理工学術院及び早稲田大学に与える影響等についてのお話がありました。その後、太田有基幹理工学部教務主任から再編の概要、亀山渉情報通信学科世話人代表から情報通信学科の概要、石川博情報理工学科主任（当時）から情報理工・情報通信専攻の概要について説明があり、最後に、佐藤拓朗大学院国際情報通信研究科長の閉会の挨拶で締めくくられました。約1時間の説明会後には懇親会が開かれ、出席者間で活発な意見交換が行われました。

情報通信学科は、単に日本における情報通信の高度化を支える人材教育と最先

端の研究を推し進めるだけでなく、先進国の抱える超高齢化社会問題、エネルギー問題、また、新興国が抱える経済発展基盤問題をはじめ、環境問題といったグローバルな問題を解決するためには、情報通信が不可欠な社会基盤であるという重要性を鑑み、前述の通り、早稲田大学で情報通信の研究教育を専門とする教員が結集して新設されます。1924年に早稲田大学理工学部電気工学科通信専攻部が日本で初めての通信を専門とする教育機関として設置されましたが、ここに始まった約90年に渡る早稲田の「通信」に関する教育研究の伝統を引き継ぎ、情報通信の国際性を重視した教育研究を進めて参ります。そして、グローバルでスマートな社会の実現と、それを担う人材教育と最先端の情報通信研究の推進を行うことを目指します。

特に、グローバルという観点からは、次の二点を積極的に推進していきます。一点目は英語で学べるコースを積極的に展開すること、二点目は教育内容のグローバル化です。一点目については、基幹理工学部ではこれまで文科省の国際化拠点整備事業（通称グローバル30）の支援を受け、既に英語による学部教育を推進してきましたが、2014年度からはこれを発展させ、英語で学べるコースを更に充実させて行きます。情報通信学科は、この基幹理工学部の方針に沿って、グローバル教育を積極的に展開します。二点目については、海外有力大学や研究機関との提携・連携等を通し、共同研究のみならず、授業交換やゼミ交換等の教育の点においても、グローバル展開を行っていく予定です。

「情報通信学科」の新設にあたり、担当教員一同、早稲田での新しい情報通信の教育研究に邁進していく所存ですが、EWE会員の皆様におかれましては、情報通信学科に是非ともご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。なお、受験生向けではありますが、下記URLから情報通信学科紹介のビデオをご覧ください。今後とも、「情報通信学科」を宜しくお願い申し上げます。

情報通信学科紹介ビデオ <http://taiken-waseda.jp/waseda/kikanrikougaku.html>

退任に際して

しあわせな時間は短くて

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 堀越 佳治



光陰矢の如く早稲田大学と共に生きた第二の人生18年は瞬く間に過ぎ去ってしまいました。つらい時間は長く、幸せな時間は短いとも言います。企業から来た私にとって、毎年フレッシュな新入生を迎え、若い頭脳と一緒に勉強し研究した経験は何ものにも代えがたい、新鮮で幸福な記憶です。それ以前の25年間私はNTT基礎研究所に所属し、自由な研究雰囲気や恵まれた環境で研究人生を楽しんできました。早稲田大学へ来た当初、すべきことの多さに戸惑いながらも、若い学生相手の教育や研究は、心弾む日々であったことを鮮明に覚えています。

私はもともと他大学出身で、当時母校からの話も進んでおりましたが、早稲田大学電気工学科は私にとって特別な響きを持つ場所でした。2000年のノーベル賞（物理学賞）受賞者であるUCSBのHerbert Kroemer先生とは、NTT時代から共同研究などを通じて交流がありましたが、その先生が早稲田大学の電気工学科をととも褒めるのです。後日になりますが、2007年に早稲田大学が創立125周年を迎えたとき、これを祝う行事の一つとして研究推進部では記念シンポジウムを開催しました。このシンポジウムを盛り上げるべくKroemer先生に招待状をお送りしました。その返事は高齢なので長旅は無理ということでしたが、その代わりに昔の早稲田大学訪問の思い出を書き送ってくれました。1980年代のことですが、当時先生はNaval Research Labのファンドで来日され、早稲田大学を訪問されました。帰国後その研究所に報告書を提出されたのですが、送って頂いたのは主にその報告書の内容についてです。そこには先生が電気工学科木俣研究室を訪問した様子が詳しく書いてありました。木俣研では当時分子線エピタキシー法によるInAs高品質化の研究を進めていたのですが、Kroemer先生から見ると実に粗末な装置で、当時のレコードを凌駕する素晴らしい高純度結晶を作っていたとい

うのです。研究室では学生たちが装置の性能保持のため夜遅くまで調整を続けており、これが成功の理由だろうと言っていました。当時アメリカでは高価な分子線エピタキシー装置の予算要求をする研究者が多く、先生は、彼らには一度木俣研を訪問させるべきだと言っていました。その後日本の分子線エピタキシー研究の分野で活躍した研究者の多くが木俣研出身者であったのは偶然ではないように思います。

私自身は学生時代、NTT時代を通して気相法、液相法をはじめ各種エピタキシー技術の研究を進めてきましたが、新材料創出に適した方法として、最終的に分子線エピタキシー技術に到達しました。この過程で木俣先生にしばしばご意見を頂きました。私が電気工学科に来た時は分子線エピタキシーの研究は下火になっておりましたが、早稲田大学を再び分子線エピタキシー研究の中心にしようという意気込みで活動を開始しました。最も幸運だったのは、このような研究に熱意を持つ多くの学生に恵まれたことです。若い感性に目を見張る思いをしたこともありました。また歴代の材研所長のご厚意により、材研での研究展開も可能になったことは、量子ドットや太陽電池などへの応用を目指した幅広い成果の原動力になりました。

さて大学に来て最も楽しく、また新鮮だったのはやはり教えることです。小学校時代の恩師の、学生と一緒に学ぶ姿勢で、という教えをベースに、毎年少しずつ講義の内容に工夫を加えました。学生が飲み込みやすい方法を発見すると達成感も格別です。こんなわけで講義の準備や講義そのものに熱が入らざるを得ません。数年後こんなことがありました。ある通年の講義の最終の日、学生たちは私に拍手をくれるとともに、それぞれの感謝の言葉を書いた色紙を準備してきました。とても感激してその色紙は今も私の宝物として書斎に飾ってあります。振り返って私自身がどの程度早稲田大学に貢献できたか、と考えると甚だ心もとない気がします。教育、研究共に反省点がたくさんあります。特に材研所長を拝命したとき、共に手を携える材料系新学科の必要性を痛感し、その設立強く望んできました。しかし今のところ実現しておりません。歴史的に見てもイノベーションは新材料に負うところが多いですし、また今後の日本にとって重要な素材産業を支える頭脳を輩出することも重要です。今後速やかに実現するよう皆さんのご支援をお願いいたします。

ある先輩からのメッセージ

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 松本 隆



皆さんの母校早稲田大学に朝河貫一という先輩がおられる。1895年早稲田を卒業し、思うところあって米国に留学した。渡航を経済的に支援したのは大隈重信、勝海舟、徳富蘇峰であった。1902年Yale大学大学院から歴史学でPh.dを取得し、Yale大学講師、助教授、准教授、教授となり終生Yaleで教鞭をとった。北米で大学教授となった最初の日本人である。

行動する学者

朝河先輩が他の多くの学者と異なる点、それは歴史学で世界的な業績をあげながら象牙の塔に留まることなく、行動する学者であり続けた点である。この方が最初の行動を起こした1905年は世界史のなかでも大きな節目の年であった。日露紛争である。この紛争は日本が勝った事にはいるが、実態は膠着状態が続き、日本の経済的疲弊は危険な様相を呈するまでに進行していた。窮地に陥った日本は米国に仲介を求めた。New Hampshire州Portsmouthに講和会議会場を用意したのは米国大統領Theodore Rooseveltであった。これは2国間の紛争であって、会場を提供するのであとはよきに計らえ、というわけにはいかない。米国には収束シナリオを準備する責務があった。そうして、そのシナリオは世界中からの視線に耐える、公正・公平なものでなくてはならない。この時の米国はまだ世界史の前面には登場しておらず、偏ったシナリオは、米国自身の立場を危うくし得るからである。そういうシナリオを書ける人物を見出すのは至難の業であった中、白羽の矢がたったのが朝河先輩である。著書 [1] を出版して識者から注目を集めたばかりでなく、各地でこの紛争について講演を行っていたためである。その客観性、資料の詳しさ、そして公平性は高く評価されていた。[1] は当該両国の人口増減、両国の産業の進展、輸出入額の変遷、それに伴う経済活動の変容などをほぼ全面的に数値をもとに掘り起し、両国の衝突が政治的なもののみならず、経済的側面に大きく影響されていることを示したものである。

朝河先輩は日記 [2] のなかで [1] について次の様に回想している：

「ロシアに打撃を与え日本を有利にする証拠を提出することは容易であった」「アメリカ人はゆがめられた情報をうのみにしたであろう」「こんな誘惑に私は屈してはならなかった。屈するどころか、あらんかぎりの力をふるって、到達した事実を提出し、はらんでいると思われる諸々の争点を陳述し、この戦争を、人間として可能な限り客観的かつ不偏不党の態度で説明すべく努めねばならなかった」

Portsmouth講和は収束し、これを契機に米国は世界史の表舞台に躍り出る事となった。その後、朝河先輩は日本の傲慢に危惧を覚え、警鐘を鳴らし続けた [3]。日本を動かしている多くの人々に直接手紙も書き、その禍期を指摘したが、1941年には状況は極端に悪化してしまった。自分の教え子のひとりでFranklin Roosevelt大統領の個人的な友人であったHarvard大学歴史学教授Warnerと共に親書を大統領に送り、日米衝突を回避する具体的シナリオを提案した。しかし、時すでに遅く戦争は始まってしまった。落胆した朝河先輩は、以後日本に帰国することはなかった。

朝河先輩からのメッセージ

この方からのメッセージを自分なりにまとめると次のようになる：

「個人、組織、国、などが私利をむき出しにすると一時は相手がひるむので勢力を博することができる。しかし長期的には良心がマヒするばかりでなく、人々の信頼を失ってしまう。」

西欧で偉大な歴史学者として現在でも高く評価されている朝河先輩が日本であまり知られていないのはなぜであろうか。

早稲田大学は、皆さんのような優れた人財を雲霞のごとく近代日本に輩出してきた。みなさんと一緒に力を合わせて朝河先輩からのメッセージを実現するよう、ささやかではあるが自分も努力していきたいと思う。

恩師、先輩、同級生、後輩、そして研究をともにした多くの若者たち、これらすべての人々に生かされて今日を迎えることができた。心から感謝したい。

[1] K. Asakawa, The Russo-Japanese Conflict: Its Causes and Issues, (reprinted edition) General Books LLC, 2012

[2] 朝河貫一書簡集、早稲田大学出版部、1999

[3] 朝河貫一、日本の禍期、(復刻版) 講談社学術文庫、1987

早稲田 音 50年

表現工学科／表現工学専攻 教授 山崎 芳男



入学以来50年、早稲田大学をこの春、1名の修士、5名の学部生とともに卒業する。EWEということでお話しいただき、早稲田50年を振り返り、感ずるままを書かせていただく。

この50年音のデジタル化、近接4点法による音場計測等はすっかり定着し、超伝導スピーカやレーザによる音場の直視等当時は考えられなかったような研究も手がけることができた。

入学したのは第18回オリンピックが東京で開かれた1964年、理工学部は大久保への移転が始まっていた。当時の入試には面接があり、電気通信科の河村秀平先生の温かく幅広いお人柄に感銘を受けた。電気通信学科の伊藤 毅研究室、理工研、建築学科、電気工学科、国際情報通信研究科そして表現工学科で多くの仲間と一緒に音の研究をさせていただいた。河村先生とは研究室もお隣、帰宅も同方向であったので、長年公私ともに大変お世話になった。

学部時代、大学紛争の影響で講義が少なかった時期には、井深 大 大先輩のお計らいでソニーに通って好きなことをさせていただいた。当時の通信科では3年時に実習があったのだが、ソニーの中央研究所で銅・ニッケル・鉄の合金の比率やアニーリングの温度等を変えて磁化曲線を観測する研究を行い、これが修士論文の礎となった。卒業研究はNHKの技術研究所で「音声合成機のSN比の改善に関する研究」を行った。

大学院入学時、伊藤 毅先生に「広帯域音響信号のデジタル処理」をやってみたいとご相談すると、先生は「10年建築音響を、10年騒音制御をやったので10年くらいやってみるか」とおっしゃって、受け入れてくださった。私は10年で区切りはつけられなかったが。

1974年は特に印象に残る年である。夏には3ヵ月間ヨーロッパに滞在し、はじめてロンドンで開かれた国際会議ICA (International Congress on Acoustics) でデジタルを使った音響計測について発表した。また秋には、テレビジョン学会の研究会で、故八田 康君、山須田 繁君とともに、今も研究の柱の一つになっているフィードフォワードによる「1 bit信号処理」を発表した。

1985年8月12日のあの痛ましい日航機の航空史上最大の事故、航空機事故調査委員会の専門委員としてCVRコックピットボイスレコーダの解析を行うこととなった。当時の研究室のメンバーの協力を得て、かなり斬新な信号処理をしたが、

調査の性格上、論文として発表できなかったのは心残りである。

2004年からはIT研究機構に参加、1ビット研究会では安田靖彦先生が東大の猪瀬博研究室の学生時代に発明された $\Delta\Sigma$ 変調、我々が提案した高域集中ディザを用いた1ビット伝送・記録などの議論が活発に行われている。このところ急速に1ビット技術がネットワークオーディオや無線の分野で実用に供され始めているのは喜ばしい限りである。

科研費で「レコード・テープの非接触・非破壊読み取りによる記録保存」、IPA(情報処理推進機構)の「3次元音場シミュレーションソフトウェアの開発」、21世紀COE「プロダクティブICTアカデミア」、グローバルCOE「アンビエントSoC教育研究の国際拠点」、「音響レンズと電磁波を用いた3次元音場のリモートセンシング」等の研究をその時々仲間とともにやってきた。

ここ20年余は、卒修論の提出前の毎年1月末の土曜に、白井克彦先生、小林哲則先生と3研究室合同の研究発表会が開かれて来た。学部を超えて研究室も増え、多くの卒業生の参加も得て、今やEWEを中心とした研究者の貴重な交流の場となっている。

2000年からは、オープン教育センターのユネスコ、平和学、イスラムとIT等のテーマカレッジで、学部を問わず多くの学生たちと、120号館でゼミ形式の演習を始めた。ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)と早稲田大学とは包括協定締結を結び、毎年、学生の手による様々な技術・文化活動をユネスコに提案し実践してきたのは、早稲田大学の教旨「学問の活用」といえよう。

また2008年には、思いもかけず、本庄高等学院の院長を尾崎肇先生から引き継いだ。4年間の学院長時代には、無限の可能性を持った高校生の若い力にふれ、この時期の過ごし方の大切さを痛感した。中国、台湾、韓国への修学旅行や地元との交流も思い出深い。

人類の数百万年の歴史の中で、音声言語は10万年、文字は1万年、電気は200年、真空管は100年、半導体に至ってはわずかにここ60年である。我々の親の時代はラジオ放送も無く、私の小学校時代まではテレビ放送が無かったことなど考えると、どのような世の中となるかは想像もできない。しかし基本は変わらぬ筈である。

微分方程式、波動方程式は奥が深い、そして音、音場は手ごわい。これが偽らざる実感である。

伊藤先生は常々「早稲田の学生を紳士に育てる」、「大学の教員には特に資格はいらない、ただ全人格をもって学生に接することが求められている」とおっしゃっていた。紳士は育てられなかったが、私なりに全人格で学生に接してきたつもりではある。

早稲田大学は、「多様性」と「出会い」の宝庫であった。多くの出会いに支えられた半世紀に感謝している。学生諸君には、「ノウハウ(know-how)」より「ノウフー(know-who)」を大切にして「ほんもの」を目指してほしい。

情報通信学科教員の横顔 (五十音順)



甲藤 二郎

1987年東京大学工学部電気工学科卒業。1992年同大学工学系研究科博士課程電子工学専攻修了、博士(工学)。同年、日本電気株式会社入社。1996年～1997年米国プリンストン大学客員研究員。1999年早稲田大学理工学部電子・情報通信学科助教授。2004年早稲田大学理工学部コンピュータ・ネットワーク工学科教授、新エネルギー・産業技術総合開発機構主任研究員。2007年早稲田大学基幹理工学部情報理工学科教授。主にマルチメディア通信、信号処理の研究に従事。



亀山 渉

1985年早大理工電子通信学科、1987年同大学院理工学研究科修士課程了、1990年同大学院理工学研究科博士課程了。1989年早大理工学部助手。1992年(株)アスキー、1994年フランスステレコム研究所出向等を経て、1999年早大国際情報通信研究センター助教授、2002年早大大学院国際情報通信研究科教授、2014年4月早大基幹理工学部情報通信学科教授。マルチメディア情報流通関連の研究に従事。工学博士。



小林 哲則

1980年電気工学科卒。1985年大学院理工学研究科博士課程修了。工博。法政大学講師・助教授を経て、1991年より早稲田大学勤務。1997年教授。マサチューセッツ工科大学、ATR音声言語研究所、NHK技術研究所などの客員研究員を歴任。機械学習、パターン認識、音声・画像処理、会話ロボット、高齢者用インタフェースなどの研究に興味を持つ。



佐藤 拓朗

専門、次世代移動通信、スマートグリッド、移動通信の国際標準化。IEEEフェロー、電子情報通信学会終身会員、日本シミュレーション学会理事、自治体衛星機構理事、新潟工科大学名誉教授。1973年 沖電気工業株式会社研究所、世界で最初の自動車電話の開発。1985年—1989年セルラー高速データ通信方式の国際標準化 (ITU) 活動。1990年—1995年広帯域CDMA方式を開発し、米国TIA標準化提案IS-665を標準化方式として採用。1995年新潟工科大学教授、2000年に無線LANチップベンダー・キーストリーム株式会社社長、無線システム会社・WiVicom設立。2004年に早稲田大学教授、工学博士。



嶋本 薫

1985年電気通信大学通信工学科卒、1987年同大学院研究科通信工学専攻修了、同年日本電気(株)入社、1991年電気通信大学電子情報学科助手、1992年群馬大学工学部情報工学科助手、1993年博士(工学)東北大学、1994年群馬大学助教授、2000年早稲田大学大学院国際情報通信研究科助教授、2002年同研究科教授、2008年米スタンフォード大学客員教授。現在、ワイヤレスアクセス方式を中心に超音波、無線、光無線等の各種通信に関する研究に従事。



高畑 文雄

1972年電気通信学科卒。1974年大学院理工学研究科修士課程了。同年、国際電信電話(株)研究所入社。1980年工学博士(早大)。1988年理工学部教授。現在に至る。1995年英国サリー大学訪問教授。移動通信、固定通信、衛星通信、放送分野における無線周波数の有効利用に関する研究に従事。著書は、「宇宙技術入門」(共著、オーム社)、「信号表現の基礎」(電子情報通信学会編、コロナ社)、「デジタル無線通信入門」(共著、培風館)など。



田中 良明

1974年東京大学工学部電子工学科卒、1976年同大学院修士課程了、1979年同博士課程了、工学博士。1979年東京大学講師、1984年同助教授、1996年早稲田大学教授。通信ネットワークの研究に従事。スウェーデン・ルンド大学客員教授、国立情報学研究所客員教授、電子情報通信学会評議員、編集理事、通信ソサイエティ会長、日本技術者教育認定機構理事等を歴任。電子情報通信学会論文賞、業績賞、功績賞、総務大臣表彰、大川出版賞等を受賞。



戸川 望

1992年電子通信学科卒。1997年大学院理工学研究科博士後期課程修了。早大博士(工学)。1994年～1997年日本学術振興会特別研究員(DC)。1997年早大理工助手、2000年講師、2001年北九州市大助教授、2005年早大助教授、2007年准教授、2009年教授。現在、集積回路をはじめとする集積システム設計とその応用研究に従事。



中里 秀則

1982年電子通信学科卒。同年沖電気工業(株)入社。1993年イリノイ大学大学院博士課程了。Ph.D. 2000年大学院国際情報通信研究科教授、分散システム、インターネットQoSの研究に従事。電子情報通信学会通信ソサイエティにおいて英文論文誌編集副委員長、編集臨時幹事、副編集長などを歴任。2009年よりIEEE Region 10 EXCOM、IEEE MGAの各委員会メンバ。



朴 容震

1993年電子通信学科卒。1995年大学院理工学研究科修士課程了、同年日本電信電話(株)ワイヤレスシステム研究所入所。2001年早大博士(工学)、2002年日本学術振興会特別研究員(PD)、2003~2005年独ハノーバー大学訪問研究員、2006年早大理工専任講師、2007年准教授、2012年教授。現在、デジタル無線通信方式及び無線信号処理に関する研究に従事。



前原 文明

1993年電子通信学科卒。1995年大学院理工学研究科修士課程了、同年日本電信電話(株)ワイヤレスシステム研究所入所。2001年早大博士(工学)、2002年日本学術振興会特別研究員(PD)、2003~2005年独ハノーバー大学訪問研究員、2006年早大理工専任講師、2007年准教授、2012年教授。現在、デジタル無線通信方式及び無線信号処理に関する研究に従事。



森 達哉

1997年応用物理学科卒。1999年大学院理工学研究科修士課程了、同年日本電信電話(株)情報流通プラットフォーム研究所入所。2005年早大博士(情報科学)、2007~2008年米ウイスコンシン州立大学マディソン校訪問研究員、2013年早大理工准教授。現在、ネットワーク・システムおよびネットワーク・セキュリティに関する研究に従事。



渡辺 裕

1980年北海道大学工学部電子工学科卒。1985年同大学院工学研究科博士課程了、工学博士。同年日本電信電話(株)横須賀電気通信研究所入所。1989年NTTヒューマンインタフェース研究所主任研究員。1990年~1991年Bell Communications Research 客員研究員。1999年NTTヒューマンインタフェース研究所主幹研究員。1999年~2006年ISO/IEC JTC1/SC29議長。2001年早稲田大学国際情報通信研究センター教授。現在、映像処理、マルチメディア配信に関する研究に従事。



柳澤 政生

1981年電子通信学科卒。1986年大学院理工学研究科博士後程了。工学博士。1984年情報科学研究教育センター助手。1986年カリフォルニア大学パークレー校研究員。1987年拓殖大学助教授。1991年早大理工助教授、1998年教授。1994年ドイツ、パッサウ大学客員教授。2006~2010年理工学術院長補佐。集積システム設計、センサネットワーク、バイオインフォマティクス等に関する研究に従事。電子情報通信学会フェロー。

若手OBの活躍

「暮らし」を変える技術と言葉

明治大学理工学部 電気電子生命学科 准教授

工藤 寛之（1997 電子通信学科卒）



私は1997年に電子通信学科を卒業しました。その後、大学院電子・情報通信学専攻（修士・博士後期課程）を経て、2003年より東京都立産業技術研究所（現・東京都立産業技術研究センター）、2005年より東京医科歯科大学・生体材料工学研究所で勤務し、2013年4月に明治大学理工学部・電気電子生命学科の准教授に着任しました。

本学に来てから約1年になりますが、研究室の立ち上げには多くの時間を費やしました。私は、「暮らし」という人間の活動を理解するための新しいバイオ・マイクロデバイスの開発をテーマに研究を行っています。近年の生体計測技術における飛躍的な進歩を背景に、私たちが日常生活の中で得られる生体情報の種類と質は飛躍的に向上しています。また、これらの医療機器や健康機器と携帯電話などの情報端末を連携し、効果的な健康管理に活用するPersonal Health Recording（PHR）は、わが国でもデジタルヘルスという言葉とともに広がりを見せています。例えば、体重や血圧、体温といった基本的な健康情報に加え、心電図のような生体の電氣的な活動や血糖値など液性成分に関する情報も簡便に計測し、デジタル化することが可能です。これらの情報は、利用者自身の健康管理に利用するだけでなく、膨大な数のデータを収集し、データマイニングなどの情

報工学的な手法を駆使することで健康管理や最適な治療方針の選定などより効果的な活用が期待されます。

一方、私たちの「暮らし」は、無意識下における生命維持活動のみならず、文化的・社会的な活動によって成り立っています。また社会生活に伴う快・不快の情動や感情は健康状態にも大きく影響することが知られていますが、日常生活の中でこれらを客観的な生体情報として扱うことは困難です。例えば唾液中のストレスマーカーとして知られているコルチゾールやアマラーゼ活性についての研究は比較的進んでいます。日常生活における刺激とこれらストレス物質の動的な相関性を調べるにはまだ技術的な課題があります。私は、学生時代より培ってきたマイクロファブリケーションの技術と生化学計測と組み合わせることで、こうした液性成分のin-situリアルタイム計測デバイスの開発を進めています。様々な生体情報や位置情報、刺激の種類と液性成分のダイナミクスの相関を網羅的に調べる技術を開発することで、「暮らし」を理解することを目指しています。

さて、「若手OBの活躍」という大変光栄なページを頂戴致しておりますが、早稲田大学にいた頃の自身を振り返れば誰がどうひいき目に見ても優秀な学生だったとは言い難く、先生方を始め、周囲に迷惑をかけてばかりでした。この時期（期末試験の直後なのです）は、何名かの学生が神妙な面持ちで単位の無心にやってきました。君の単位は大丈夫だと言ってやると、それはもう満面の笑みと安堵の表情を浮かべて帰っていくのですが、私もかつて同じように先生方の部屋を訪れた覚えがあり、彼らを他人とは思えません。そんな私が研究者として何とかやってこられたのは、恩師である庄子習一教授から二つの事を教えていただいたからだと思います。一つは、マイクロファブリケーションを通じた「ものづくり」で、これは私のライフワークともいえます。もう一つは、「今日出来ることは今日やる」ということです。「言うは易く行は難し」とはよく言ったもので、この単純明快な言葉は私にとっていまだに耳が痛くなる言葉でもあります。しかし、自分なりにこの言葉を真摯に受け止めて意識することで、確実に身の回りの多くの事が好転しました。恐らく、多くの方にとっても同様ではないでしょうか。「お前がいうな」とあちこちからお叱りを受けそうではございますが、一つ自分の事は棚に上げさせていただき、これから社会に出ていかれる学生諸君にも是非このことを心がけていただきたいと思います。

修士課程修了にあたって

電気・情報生命専攻 宇留野 彩
(小林研究室)



研究室生活の3年間は振り返ってみると決して楽なものではなかったと思います。小林研究室に入ってからすぐ先輩がいなくなり、「研究」というものがどんなのか教えて頂けずに自分で道を切り開くしかない状況でした。自身の研究に対する理解、実験に対する考察など、最初はわからないことばかりで、大変苦労しました。また先輩の指導に関しても先輩がいらないなか、どうしたらいいのか戸惑う場面も多々ありました。何度も辞めたいと思ったこともありましたが、頑張った分だけちゃんと成果として現れてくれると信じてこれまで走り続けてきました。その過程で、現在取り組んでいる研究の面白さを知り、もっと研究を続けたいと思うようになり、博士課程進学を決めました。博士課程に進学しても今まで以上に頑張っていきたいと思います。修士課程では国際学会に4件、国内学会に6件の発表を行うことができ、大変いい経験になりました。特に学会で自身の研究を発表するたびに、自分の未熟さを痛感し、もっと研究を頑張らなくてはいつも思います。

小林研究室での生活は、装置の水漏れを直したり、ゴミ捨て場から見えそうな実験装置を拾って来たりと想像していたスマートな研究生活とはかけ離れたものですが、この3年間の研究生活で、私は上手いかわなくても何度でも挑戦する精神力を学びました。挫折しても食らいつく雑草魂みたいな小林研の精神は、小林研を卒業してどんな職業についたとしても、役に立つものだと思います。これから小林研に残る後輩達にも屈強な精神力を身に付けてもらえたらいいなと思います。

ちゃんと修士を修了できたのも、研究室のイベントを盛り上げ、研究室をまとめ上げてくれた3人の同期、いつも明るくマイペースな後輩達、そして休みの日でも研究の相談や我儘に付き合ってくださいる小林先生のおかげだと思っています。この場をお借りして感謝を申し上げます。そしてこれからもよろしくお願い致します。

情報理工学専攻 長田 弦
(前原研究室)



私は学部時代、携帯電話やデジタル放送などの無線サービスを基盤的に支える技術に関心を持ち、将来の就職も見据えて研究室を選んだ。私は、特に信号処理に焦点を当てて研究し、修士課程では、第3.9世代移動通信システムに適用されているシングルキャリア周波数領域等化（SC-FDE）方式や無線通信の基盤的技術として知られるOFDM技術など、広帯域無線通信に関する研究に携わった。自身の研究以外にも、共同研究や後輩の指導など幅広く仕事を経験させて頂いた。悪戦苦闘したが、その分責任とプライドを持って取り組めたため、貴重な経験をさせて頂けたと思う。今振り返ると、研究に打ち込んだ2年間だったが、技術的な知識以上に、考える力を養えたことが自分にとって大きな糧となった。

研究が整理されると、その成果を対外的に発表する機会を頂くことができるが、この時概要書やプレゼンテーション作りを通して、一歩引いた立場から研究を見直すことがある。この時、難しい技術等に関して、大まかかつ情報量を落とさずに説明することが必要になる。また、指示されたことを機械的にこなすだけでも通用した学部時代とは違い、修士では自らが中心となり研究の意義や課題、目的等を定める場面が多々ある。こうした研究活動を通していても、考える力が必要であり、自分の取り組みをいい加減にはいけないという戒めになる。これは至極当然のことだが、当たりまえのことを当たりまえにすることが私にとって難しいことだった。また、これは研究に限った話ではなくこれから社会に出ていく上でも必要なものだと思う。

最後に、この2年間で多少なりとも意識が変わり、成長できたのは、周囲の皆様方のサポートによる所が大きかった。私は非常に恵まれた環境で、修士課程を終えることができたと思う。前原先生をはじめ、研究に関わりを持った全ての方に感謝申し上げたい。そして、早稲田大学を卒業する学生として社会に貢献し、母校への恩返しができるように思う。

ナノ理工学専攻 岡田 愛姫子
(庄子研究室)



私は現在の研究室に所属してから3年間、半導体微細加工技術を用いて、高効率LEDに向けた新規基板材料開発や、MEMSやLSIのパッケージングに用いられる新規接合技術の開発に取り組んで参りました。研究室では全員が単独のテーマに取り組んでおり、学生時代は1つの分野だけでなく、色々なことを勉強してほしいという先生のお考えのもと、多分野の研究に携わり、その成果を国際学会で発表することができ、自身の見識を広げることでできる機会に恵まれたことにとっても感謝しております。

研究室を選択する上では、半導体微細加工技術というこれまでの大学の教養課程で触れる機会があまりなかった技術を用いていることや、もともと量子力学に興味があり、ナノの世界を工学で実現できるということにも魅力を感じたことがきっかけとなりました。研究室に所属してからは全てが初めてのことでしたが、経験豊富で幅広い知識をお持ちの先生方や優秀な先輩方にご指導を賜り、頼もしい同期と後輩達に支えられ、充実した学士・修士課程を送ることができました。そうした中で、幸い学部4年の時から国際学会で研究成果を発表する機会を頂き、その後も論文執筆や特許出願にも関わらせて頂けたこと、また企業や研究所との共同研究の中で、第一線で活躍されている技術者・研究者の方々のお話をうかがい、議論させて頂けたことは、大変貴重であり、刺激的な経験でした。

研究では中々予想に近い結果が得られず、試行錯誤しながら手探りで進む毎日ですが、材料の結晶欠陥・不純物といった要因がかなり影響してくるナノオーダーでの加工技術は、作製技術だけでなく、加工を行うことで新しい原理・現象の解明を行うことにもつながっていくため、どういった付加価値をつけることができるのか、ということがとても面白い点だと考えております。

来年度は博士課程に進学致しますが、今しかできないこと、ここでしかできないことにチャレンジできる環境を与えて下さる庄子先生、水野先生、関口先生をはじめとした研究室の皆様、そして今までずっと支えてくれた両親に感謝し、今後とも邁進して参りたいと思っております。

地方本部だより

北海道地方本部だより

北海道地方本部では、平成25年度総会を去る5月11日に札幌市内において開催し、12人の会員が集いました。

総会では、脇千春（S51）地方本部長からの挨拶の中で、EWE100周年記念行事への参加報告があり、盛大な会の様子や、大学の近況など母校の話題に皆大変興味深く聞き入っていました。

総会に続く懇親会においては、年代の壁を越え昔話に花が咲き、大変貴重な時間を過ごすことができました。また、今年度は早稲田グッズ争奪じゃんけん大会が行われるなど、終始賑やかな会となりました。そして、最後は全員で肩を組みながらの「都の西北」の斉唱で盛況のうちに懇親会は閉会となりました。今後も定期的に総会、懇親会を開催し、会員みなさまとの親睦を深めていきたいと思っておりますので、多くの会員みなさまの参加をお待ちしております。

最後になりますが、北海道在住の方で地方本部総会のご案内が送付されていない方は、ご連絡願います（地方本部連絡先一覧参照）。（前田 知哉 記）



九州地方本部だより

九州地方本部では、平成25年3月1日（金）に平和楼天神本店（福岡市内）において、平成24年度の総会を開催しました。ご来賓として、EWE本部より吉野会長、小林副会長のお二人をお招きし、地方本部会員からは26名にご出席いただきました。総会は、片山本部長（S42電気）の挨拶で始まり、滞りなく終了しました。



総会及び懇親会では、吉野会長および小林副会長から、EWEや早稲田大学の近況、EWE100周年記念行事について、お話をいただきました。大型スクリーンに写真を写して、お話をいただいた際は、参加いただいた皆さまが驚きながら大変興味深く聞き入っていました。

懇親会では、EWE100周年記念品を景品としてくじ引きを行い、吉野会長が番号を引かれる度に会場は大盛り上がりとなりました。親睦が深まった後は、全員で円陣になり肩を組みながら、恒例の「都の西北」を斉唱しました。校歌を歌う皆さまはいつもにも増して笑顔で生き生きとしていました。最後は、江島さま（H19電修）の音頭によるエールで、懇親会は盛況のうちにお開きになりました。

当日、多忙な中、ご出席いただきました吉野会長、小林副会長、ご協力いただきましたEWE事務局の皆さまに厚くお礼申し上げます。

九州地方本部では今後も総会を定期的で開催し、より多くの会員の方と親睦を深め、「都の西北」を大斉唱したいと思っています。近年、総会におきまして特に若年層の会員の参加が少ないことから、総会の今後の更なる活性化のためにも九州地方EWE会員の把握や総会出席の呼びかけに取り組んでおります。九州に新たに來られた方、また在住でありながら総会案内等の連絡がない方、もしくはお知り合いでEWE会員をご存知のかたは、お手数をお掛けしますが、事務局までご一報をいただければ幸いです（「地方本部連絡窓口一覧」参照）。

（橋口 伸也 記）

東海地方本部だより

東海地方本部では、去る5月20日（月）に名古屋市内において、EWE本部から大附辰夫会長をお招きし、平成25年度の総会を開催いたしました。

総会は25名の参加者を迎え、板倉弘計幹事（S56電）による司会進行のもと、竹尾聡本部長（S49電）の開会挨拶、大附会長の来賓挨拶に続き、高木義光顧問（S34電）の乾杯により歓談へと移りました。

歓談のなかで、大附会長から、早稲田大学理工学術院・EWEにおける最近の動きやEWE本部ご提供の「電気工学系学科 歴代教員年表」についてご紹介いただきました。参加した会員は、ますます発展していく母校の姿に各々の学生時代への思いを馳せていました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエール交換ののち、内藤雄順副本部長（S51電）の閉会挨拶をもちまして、次回の再会を期しながら無事お開きとなりました。

改めて、ご出席賜りました大附会長ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様には厚く御礼申し上げます。

最後になりますが、東海地方における親睦の輪を広げていくためにも、転勤などで東海地方に来られた方、また、ご在住でありながら案内等の連絡が送付されていない方は、事務局までご通知いただけましたら幸いです。（地方本部連絡先一覧参照）



中国地方本部だより

中国地方本部では、去る6月21日に広島市内におきまして平成25年度総会を開催しました。EWE本部から竹田義行会長代理にご出席いただくなど総勢19名が集まりました。

総会では、各議案について満場一致で了承され、滞りなく終えました。

その後の懇親会では、竹田会長代理から、ご専門であられる携帯電話の世界的な動向について、最新データや画像などを混じえてご紹介いただきました。竹田会長代理の興味を引く語りに参加者一同、時間のたつのも忘れ、聞き入ってしまいました。

引き続き、今回初めてご参加された竹澤様（S59卒）にご挨拶していただきました。数分の予定でしたが、竹澤様もユーモアたっぷりに話され、すっかり時間のたつのを忘れてしまいました。

その後、最高齢でご参加いただいた荻野様（S30卒）に近況報告をいただいたところで時間がなくなり、最後に恒例の「都の西北」、さらに「紺碧の空」を、全員で大合唱しました。

中国地方本部では、より多くの会員の方にご参加いただきたいと思っております。中国地方在住の方で案内等の連絡がない方、またその他ご意見・ご要望がございましたら、事務局までご連絡ください。（地方本部連絡先一覧参照）

森平 祐次郎 記



関西地方本部だより

関西地方本部では平成25年度の総会を11月20日に開催いたしました。来賓として大附会長をお招きし、総勢51名が参加する賑やかな総会となりました。

今年度も、平成25年卒業の7名の新入会員から、昭和33年卒業の先輩まで、幅広い世代が集まり、大学時代の思い出話や近況報告に花を咲かせました。

総会においては、事業報告、会計報告、次期役員について報告・審議を行った後、大附会長より最近のEWEの状況について、学科の再編状況とEWEとの関係や先輩社員と学生の交流会の実施による活性化など、興味深いお話をご講演いただきました。



また、総会の後には懇親会を実施し、白石様（昭和48年電工卒）から、ご自身の経験を基に、日本国政府の海外における太陽光発電についての取り組み、と題して、特にアフリカ諸国における太陽光発電の設置を通して感じられた各国の実

情や状況についての講和をしていただきました。

恒例のビンゴ大会においては、早稲田グッズも多数準備して行い、時間を忘れて、大いに盛り上がりました。

最後に、新入会員の先導による全員での校歌斉唱・エールを行い、今年度も無事に総会を終了しました。

関西地方本部では、昨年、今年と7名ずつの新入会員をお迎えすることができ、若い会員も着実に増えてきております。今後とも、世代を超えた交流を深めるべく、益々の発展を目指してまいります。

関西方面に在住される方は、是非、一度ご参加ください。ご連絡をお待ちしております。

記 関西電力 山田 力

地方本部連絡窓口一覧

北海道地方本部	〒060-8677 札幌市中央区大通東1丁目2番地 北海道電力(株) 工務部 系統運用グループ 前田 知哉 電話：011-251-4474 E-mail：h2005013@epmail.hepco.co.jp
東北地方本部	〒980-8550 仙台市青葉区本町1-7-1 東北電力(株) 電力システム部(送電) 諏訪 三千男 電話：022-799-2938 E-mail：suwa.michio.zf@tohoku-epco.co.jp
北陸地方本部	〒930-8686 富山市牛島町15-1 北陸電力(株) 経営企画部 需給計画チーム 福田 泰史 電話：076-405-3767(内線 911-3231) E-mail：fukuda.taishi@rikuden.co.jp
東海地方本部	〒461-8680 名古屋市東区東新町1番地 中部電力(株) 流通本部系統運用部 給電計画グループ 高橋 良介 電話：052-973-2216 E-mail：Takahashi.Ryousuke@chuden.co.jp
関西地方本部	〒530-8270 大阪市北区中之島3-6-16 関西電力(株) 電力流通事業本部 系統運用グループ 山田 力 電話：06-7104-1934 E-mail：yamada.tsutomu@d2.kepco.co.jp
中国地方本部	〒730-8701 広島市中区小町4-33 中国電力(株) 流通事業本部 中央給電指令所 西村 圭二 電話：050-8202-2853 E-mail：171101@pnet.energia.co.jp
九州地方本部	〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82 九州電力(株) 電力輸送本部 系統制御システムグループ 橋口 伸也 電話：092-726-1722 E-mail：Shinya_Hashiguchi@kyuden.co.jp

クラス会だより

電気通信学科 1947年(昭22)卒クラス会

昨年から場所をリーガロイヤルホテル東京に移し、今年は4月26日に集まりました。

ここ4年ほど出席4名が続いていましたが、今回は伊藤さんが久しぶりに出席で、5名の出席となりました。

お互いの近況報告を含む情報交換で会を進めました。現在では、現役で活躍する人はなく、今年も健康情報交換と戦中戦後の経験や趣味が主な話題でしたが、伊藤さんが合唱を続けておられるという話も披露されました。

今後も多数の出席は期待できませんが、数名でも集まれるときは行うということで、指し向き来年の続行を約束し、ホテルから直結する大隈庭園へ出て、記念写真を撮影して散会しました。昨年は桜が満開でしたが、今年はずつじが花盛りでした。
(赤松 正也 記)



出席者(左から) 赤松 正也、栗島 茂、和田 新、小黒 幸平、伊藤 允喜

電気通信学科 1951年(昭26)卒クラス会

卒業時に43名を数えた級友が、 齢80歳台半ばを超えた今年は在籍20名に減り、足腰が弱くなった友も参加できるよう新宿駅JR西口改札から最も近い和食処「さがみ」を会場に企画した。併し健康上の理由で出席出来ない人達が10名弱に達し、参加は10名となった。(敬称略 小林、斎伯、田島、谷池、土手、中島、橋本、堀家、南、八幡)

加えて欠席の藤本氏から寄付金を頂いた。

今までずっと参加して頂いた平山先生のご都合を伺って日時を決めていたが、昨年同様今年も遠出の会合は差し控えるとの事で、ご欠席になられた。

最初に幹事から今回の同期会開催通知に対する返信報告は、胃ガン手術を克服し養生中の斎伯君を始め10名が出席、欠席通知の過半は足腰が不調との説明があった。また3年前までEWEの評議員をしていた菊地君が手紙も電話も応答無く心配である。

議題の最初は、ご欠席の平山先生に対し長年出席された感謝と今後のご健康を祈って祈念の品をお送りする件が、全員一致で決まった。

次に菊地君の代わりに今年のEWE評議員会には、南敏君が出席することに決まった。

また、電気工学科からの合同同期会提案の件は、現在の電工科の名簿を貰って次回検討する事になった。

続いて出席者の近況報告は、何れも健康維持に関する留意点などを主体に話が弾んだ。



今回の幹事は谷池、小林の両君に委嘱する事になり、デジタルフレームでの西早稲田キャンパスのスナップ写真とグリークラブの校歌演奏に合わせて合唱し、屋上庭園で記念撮影をして散会した。

(記 幹事 八幡)

電気工学科 1953年(昭28)卒クラス会

卒業以来毎年 欠かさずクラス会を開催、今年は60年目で 還暦に当たる。年令83歳前後の人が大部分で、多くの人が何らかの病気や家庭の事情もあって 出席数も最低の13名まで落ち込んでしまった。

開催日が台風27号接近で気を揉んだが、記念すべきクラス会を 平成25年10月24日便利な銀座・大志満に集い懐旧談義を楽しんだ。今年は特別に編集した「懐古のクラス会の写真集」を回覧し若き頃の姿を懐かしんだ。

また一人一人現況を披露したが、年輪重ねた分長い話が多かった。新たな趣味に生きる話・病気の苦労話などに、質問・情報交換・アドバイス等で話が弾んだ。予定の時間をオーバーしたがお店の人も大目に見てくれ3時間余に及んだ。

最後には恒例の校歌の斉唱、正規より早くしたテンポのカセットの音声に合わせて1～3番全部歌った、付いて行くのに疲れたとの声もあった。

また来年も元気で会おうじゃないかと、一本締めで、威勢よく締め括った。

なお出席者は・大塚・岡部・菊池・澤田・田野倉・富田・中田・中村・松井・山田(益)・[以下幹事]池田・清水・島田の計13名であった。

(島田 好恵 記)



早稲田大学第一工学部電気工学科 第60回クラス会 2013-10-24 銀座大志満

電気通信学科 1956年(昭31)卒クラス会

平成25年4月20日 駒形どぜう・渋谷店にてクラス会を持った。

EWE会報2013年3月号が届いたので式典の報告をすること、および31年電気通信学科EWE評議員を務めていた橋本吉郎氏が逝去されたので後任を選出する必要があったので、伊藤幹事が急遽計画をしたため、参加者は堅川 豪、古市善教、堀内 洲、盛田恒夫、片岡 基、伊藤幸雄、桑原守二の7名となった。

最新の名簿を配布するとともに、都合が悪く来られなかった方々の近況、最近ご逝去された方の情報、また夫々の健康、趣味、大学時代の思い出などが紹介された。

なお、橋本評議員の後任は桑原守二元会長が務めることとなった。

美味しいどぜう鍋を囲みお酒もまわり賑やかな 雰囲気のもと、次回の集まりを期待しての散会となった。



出席者(左から堀内、盛田、古市、桑原、片岡、堅川、伊藤)
(桑原記、写真協力・片岡)

早大三一会

1956年（昭31）理工学部電気工学科 2 理卒業クラス会

1956年3月卒業生である我々“早大三一会”は、本年度全員が満80歳を超える事になった。

卒業以来毎年開催して来たクラス会であるが、本年は全員80歳をクリアするお祝いも兼ねて、本年度ホームカミングデー並びに早稲田祭開催に併せ10月20日（日）に“早大三一会クラス会”を次のプログラムにて開催した。

- ① ホームカミングデー式典自由参加出席（早大記念会堂）
- ② 模擬授業実施（8号館307教室）
- ③ 懇親会実施（そば屋）

年毎に、病気加療中にて動けぬ者や物故者が増え淋しい限りであるが、今年度クラス会出席を果たした者は高齢社会の一員でありながら未だ諸企業において活躍している者や社会的活動に貢献している者があり、何れも早稲田大学卒業生としての誇りの中で自己の生涯生活を満喫されている事を確認し、実に楽しく有意義な記念のクラス会が出来た。

クラス会の締めくくりとして、出席者全員で恒例の校歌斉唱をしながら、今後も夫々に健康維持を図り早稲田EWE電気工学会の一員として活動する事を確認し散会した。

早大三一会代表幹事 中野 光倫 記



電気通信学科 1960年（昭35）卒 同窓会（WE35）

学生時代に過ごした学舎は安倍球場の通り一つ隔てた木造校舎であった。既に、学帽は少なかったが、全員は学生服であった。甘泉園もあった。理工学部が大久保キャンパスに移る前の最後に近い本校キャンパス卒業生であった。

前回の同窓会から10年近く間隔が空いてしまった。70余名の仲間の40数名が参加出来た久しぶりの同窓会が表参道近傍のNHK青山荘で平成25年4月10日に開催された。

卒業以来半世紀ぶりの顔もあり、暫し戸惑いする場合もあったが、ゴルフをする連中には結構馴染みが多かった。しかし、15名の同僚が既に鬼籍に入ってしまった。

仕事の面では王道を闊歩された面々ではあるが、個々の人生では苦楽色々な経験をされて来た事が、話の中に垣間見え、お互いに我が身に照らして、話が尽きない近頃になく楽しい同窓会となった。皆、75歳から77歳の後期高齢者になり、昔の童謡で「村の渡しの船頭さんは今年60のお爺さん」を遥かに越した訳であるが、今の社会で付き合う周りの中では、まだ駆け出しで扱われるご時世である。確かに、話を交わし、改めて写真で皆の顔を見ると、まだまだ一働きできる気力を十分備えていると思われる。

今後も、少し体に注意して人生を楽しんで2年後と決まった同窓会で語り合いたいと考えている。

（2013年幹事 北沢 幸浩、服部 尚彦）



WE35 同窓会 平成25年4月10日（水） NHK青山4-44

1962年（昭37）卒 電気工学科同窓会の開催



2013年10月27日（日）に1962年卒業の電気工学科の同窓会を大隈会館にて開催。25名の参加者を得て、尾崎名誉教授による学部関連報告に始まり遠地からの参加者の近況報告、回顧談まで愉快な一時を過ごしました。

H25年度幹事：伊原、相沢、岩井、三橋、嘉山

1966年（昭41）卒 電気通信学科 クラス会

卒業から47年、我々も古希を迎える年となりました。2020年に東京オリンピックが決定しましたが、在学中には、東京オリンピックが開催され、高度成長の勢いが感じられる年代でした。カラーテレビが普及し、コンピュータの開発が盛んになり、レーザーやICが出始めた頃だったと記憶しています。卒業の年は、学園紛争で卒業式もままならぬ状態でしたが、我々電気通信科の同期は1名の落第生を出すこともなく、全員がめでたく卒業しました。

最近、クラス会は、2年毎に開催していますが、今回は、11月9日にアルカディア市ヶ谷で開催、同期生106名中30名が出席しました。最初にこの2年間に亡くなられた方に黙祷し、前回幹事の川嶋さんの発声で乾杯、来賓には基幹理工学部長の大石進一教授をお招きし、「電気通信学科と現在の理工学部」のタイトルで最近の理工学部の状況やトピックスなどにつきお話いただきました。続いて、参加者を代表し、遠方から参加の大工さん（仙台から）、久保さん（山口県から）に近況をお話いただき、その後、各人懇談に移り、旧交を温めました。

ほとんどの方がリタイアされ、色々な趣味やボランティア活動など積極的に活動されている様子が印象的でした。また、何人かは、未だ現役として頑張っておられます。最後に、恒例により吉野「会長」の音頭で校歌斉唱とエールを行い、次回幹事を山口さんと涌井さんにお願ひし、2年後に大学周辺での再開を約束して散会しました。

（幹事：小出、庄田）



1971年（昭46）電気卒同窓会報告 関西支部忘年会 同窓会新年会を振り返って

私は12月15日その日の朝、新横浜下りのプラットフォームに立った。倉本君と神戸三宮へ向かった。倉本君とは初めての旅だった。2時間半ののぞみの旅の末、新大阪に程なく到着し、目的の神戸三宮に、そして東天閣に着いた。先にいた三井君らのあたたかい歓迎を受け店の中に入ると何人かがいた。程なく7人衆勢揃い、宴は始まった。



関西での第1回目の会合という事で顔合わせ程度にしましょうという木村会長の意向の下に自己紹介。テーマを絞っての話し、日本の電気業界、その中でワセダ人の活躍と話しは進んだ。テーマを絞った話では東北地震は対応のまずさが際立ったという話に終始した。また三井君の、東電はBWR方式で、関電のPWR方式より不安定であると言うアンラッキーさもあったと言う、貴重な御意見もお聞きした。最後は来年の新年会に佐々木君が参加するという事で無事関西支部が設立された。

新年会は年が明けてから案内状を出した割には去年より5割増しの14名の参加希望があったが、当日は2人が欠席した。合田君の名(?)調子で会が進行し、まず総会で白井総長の名誉会長就任快諾の報告が有り、その記念パーティーを3、4月に、また、1回限りの同級生一泊宿泊旅行を6月にやろうという事がほぼ全員の賛成で決まった。また、簡単な会則も必要だと意見の一致をみた。執行部で議論し次回の同窓会で結論を出すことになった。次に近況報告になり、会社任中の思い出話しに花が咲いた。最後は校歌斉唱でしめた。来年の第2回同窓会に思いをはせながら皆で中華街を闊歩し別れた。ちなみに両日共快晴気温は高かった。

(平成26年2月11日 会長 草間 晴夫)

学生支援基金報告

E Tロボットコンテスト アーキテクト部門

東京地区大会 報告書

基幹理工学部 情報理工学科

鷲崎研究室 修士2年 角谷 将司

E Tロボットコンテストのアーキテクト部門とは、指定された2輪のロボットのソフトウェア面において変更し、決められた範囲内を自由に企画・開発し、演技させるコンテストです。

我々は海賊をテーマとして、難所をクリアしていくシステムを開発することに決めました。さらに、音楽やセリフを加えることで、派手な演出をすることに決めました。以下に内容を図1に、参加したメンバーを表1に記します。

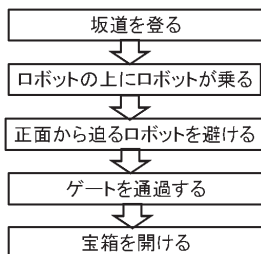


図1 システムの流れ

表1 参加メンバー 一覧

氏名	研究室
角谷 将司	鷲崎研究室
加藤 史也	鷲崎研究室
土屋 良介	鷲崎研究室
高澤 亮平	鷲崎研究室
佐藤 靖治	鷲崎研究室
津田 直彦	鷲崎研究室
高田 正樹	深澤研究室

大会の結果は、残念ながら4位と入賞できずに終わりました。しかし、チームで開発することによる経験は大きく、システム開発の困難さ・楽しさを同時に学べたと考えております。

最後に実際の開発したシステムの写真（図2、図3）を以下に示します。



図2 ゲート通過シーン



図3 宝箱を開けるシーン

EWE活性化委員会2013年度活動報告

6年目を迎えた活性化委員会の活動を報告します。

会員アドレスの収集

2014年1月末現在の登録アドレス数は約5100件です。

- ・EWEウェブニュースの配信

2013年1月～12月の1年間で24件のニュースを配信しました。

内容は、シンポジウム等の案内2件、EWE活動関連4件、新学科新設関連3件、ヘッドラインニュース11件、随筆2件、その他2件でした。

学生対応活動

- ・企業見学会

見学先：新宿新都心地域冷暖房施設

実施日：2013年10月2日 参加者12名

同 10月4日 参加者22名

- ・EWE先輩と学生との交流会

開催日：2013年12月18日

参加者数：企業30社・約100名、学生284名

なお、例年開催している講演会は、先輩と学生との交流会が12月に繰り上がったため、今年度は開催しませんでした。



活性化委員会メンバー

種市 健 1959電	下村尚久 1960通	高橋 弘 1960電	尾崎 肇 1962電
根岸 哲 1962通	三木博之 1962通	田中良一 1963通	中村耕造 1963通
矢幡明樹 1964電	本多正己 1965電	小泉金之助 1965電	石川 宏 1965通
*吉野武彦 1966通	杉原鉄夫 1966通	穴澤健明 1967通	

*委員長

(卒業年次順)

EWE三月会2013年度活動報告

基本的には毎月第三月曜日に開催しているEWE三月会の2013年度は下記のように10回の講演会を開催しました。毎回、熱心な方々が参加して活発な質疑応答がありました。最も参加者が多かったのは、石井吉徳先生の「日本人と日本列島」で、会員からの要望もあり、9月にもお願いしました。

- 1月例会：1月21日（月）「技術立国日本復活への提言」
早稲田大学理工学術院 客員教授 山田 宰先生
- 2月例会：2月18日（月）「人間と機械の視覚」
早稲田大学基幹理工学部情報理工学科 教授 石川 博先生
- 3月例会：3月18日（月）「日本人と日本列島」
東京大学 名誉教授、もったいない学会会長 石井 吉徳先生
- 4月例会：4月15日（月）「地方自治体主導の災害に強いエコタウンの構築」
早稲田大学理工学術院 教授 横山 隆一先生
- 5月例会：5月20日（月）「ケンブリッジで学んだこと」
早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科 教授 武田 京三郎先生
- 6月例会：6月17日（月）「情報化社会におけるフォトニクスの最近の状況」
早稲田大学基幹理工学部電子光システム学科 教授 宇高 勝之先生
- 7月例会：7月22日（月）「超高感度HARP（ハーブ）撮像管の開発とその応用」
元NHK放送技術研究所長、高知工科大学客員教授、東京電機大学
客員教授 谷岡 健吉先生
- 9月例会：9月17日（火）「地球は有限、資源は質が全て」～東京文明の行方～
東京大学 名誉教授、もったいない学会会長 石井 吉徳先生
- 10月例会：10月15日（火）「最先端マルチコアプロセッサに関する産学連携研究」
早稲田大学理工学術院基幹理工学部情報理工学科 教授 笠原 博徳先生
- 11月例会：11月25日（月）「革新的医療機器の開発と普及を促進する医工学を基盤とした非臨床評価法の進展」

早稲田大学先進理工学研究科、共同先端生命医科学専攻 准教授 岩崎 清隆先生
2014年度も多岐に渡る分野の先生方をお招きして様々な分野の講演を計画しております。毎回20名程度の少人数ですから、先生との質疑応答も和やかな雰囲気の中で自由闊達な議論が展開されます。まだ参加されることがないEWE会員の方も大歓迎です。先ずは一度聴講して、体験して頂ければと思いますので、下記メール宛てのご連絡をお待ちしております。

EWE三月会幹事・事務局 唐澤 豊（昭和45年電気）記
E-mail：ewesangetsukai@gmail.com

学生部会報告

研究室対抗ソフトボール大会に寄せて

＝ 研究室対抗ソフトボール大会 ＝

2013年11月1日（金）の秋晴れの中、今年も江戸川河川敷にてEWE主催の研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。参加人数は520人（38チーム）で、野球場12面を貸し切る過去最大規模の大会となりました。日頃研究に勤しむ学生たちにとって、この大会は、体を思う存分動かすことができる数少ない場であると同時に、仲間との親睦をより一層深めることのできる良い機会です。

試合は午前9時から始まりました。参加チームには、優勝を目指して数か月前から担当教授の監督の元、練習に励んできたチームや、参加人数が9人未満となっしまい、急きょ他のチームから助っ人を呼び、ぶっつけ本番で試合に臨むチームなどがおり、各々が個性に溢れています。しかし、参加した全員がその実力に関係なく、チームワークを持って試合に臨み、楽しい時を過ごしました。

お昼になると、一旦全試合が終了し、参加者全員にお弁当とお茶が配られました。澄んだ秋の青空の下、河川敷の丘で仲間と食べるお弁当はとてもおいしく、会話も弾みます。そして、お弁当を食べた後には、いよいよ決勝トーナメントの始まりです。強豪チーム同士の白熱した試合が行われました。また、既に敗退が決定したチームの人も、他のチームの試合の応援をしたり、敗退チーム同士で練習試合をしたり、堤防の丘で寝たり、それぞれが思い思いに過ごしていました。

数々の死闘を制し、王座の栄冠に輝いたチームは【磁場高雄】（石山研究室）でした。おめでとうございます。本大会を通して、改めて研究室の仲間の有難さ、そのつながりの強さを確認することができました。EWE学生委員として、皆さまと共に充実した一日を過ごせたことを喜び、ご参加、ご助力いただいた皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました！

記：栗田 悠、中村 薫（岩本研究室）



優勝した石山研チーム



準優勝した林研チーム

2013年度修士論文一覧

＜電気・情報生命専攻＞

- 石山 敦士 研究室 <http://www.super.elec.waseda.ac.jp/>
 相原 伸平 SQUIDによる小動物生体磁気計測手法の開発—マウス心疾患検出のための基礎的検討—
 狩野 開 超電導サイクロトロンへの応用を想定したREBCO超電導コイルの発生磁場精度に関する研究
 増井 裕太 REBCO超電導コイルの常電導転移検出と保護に関する研究
 道辻 健太 超電導サイクロトロンへの応用を想定したREBCO超電導コイルの遮へい電流に関する研究
- 井上 宏子 研究室 http://www.eb.waseda.ac.jp/h_inoue/
 樋口 貴大 糖が誘導するオートファジーとそのメカニズムについて
- 井上 真郷 研究室 http://www.eb.waseda.ac.jp/m_inoue/
 瀧塚 清孝 正則化による不良設定回帰問題へのアプローチ
 阿座上誠也 有限客数待ち行列モデルの解析における閉形式解の導出
 河内 祐太 確定的探索を用いた教師なし単語分割
 松浦 主幹 MonteCarlo木探索を用いた連珠のゲームAI作成
 松村 崇志 平均律音楽の純正律化—ピアノソロでの試み—
 池田 成夫 有限客数待ち行列のモデル解析
- 岩崎 秀雄 研究室 <http://www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki/>
 宮城 康之 細胞分裂阻害剤存在化下の *Anabaena* sp. PCC7120の分化パターンと概日リズム
 石橋 友也 キンギョの逆品種改良と実験生物学を内包するアート作品としての展開
 糟谷 亮 運動性シアノバクテリア *Geitlerinema* の挙動パターンのニュートン力学モデリング構築の及び形態解析
 金成 広樹 神経系におけるE3ユビキチンリガーゼZNR2の基質の探索
 高野壮太郎 能動過程としてのシアノバクテリア大規模転写抑制機構の解明
- 岩本 伸一 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/>
 会田 峻介 太陽光発電大量導入時における力率制御と調相設備制御による電圧・無効電力制御
 鈴木 圭介 発電機制御におけるH ∞ 制御性能を導入した位相遅れ進み補償型多入

力PSS設計

- 高山 俊樹 周波数及び安定度を考慮した風力発電解列に関する研究
 瀧口 雅也 発電機制御におけるPSSと H_∞ 制御理論に基づく二次電池の制御系設計
 中谷 文洋 電源構成変化時における直列コンデンサを用いた電力潮流調整手法に関する研究
 一杉 真史 時間領域等面積法を用いたN波動揺を考慮した過渡安定度に関する研究

内田 健康 研究室 <http://www.uchi.elec.waseda.ac.jp/>

- 浅羽 研亮 脱ユビキチン化酵素Ataxin-3の基質の同定
 江波戸輝明 鉄鋼プロセスにおける最適スケジューリングによるJIT型物流システム
 沖淵 博亮 複数台のカメラを用いた疎テンプレートマッチングによる人物の認識と追跡
 呉 沙 ICU Minimal Modelに基づくグルコース・インスリンのモデルの提案と非線形モデル予測制御による血糖値の制御
 佐藤 博亮 動作推定を用いた移動対象物取り囲み制御
 島田 実季 シアロバクテリアの概日リズムモデルを用いた温度補償性・同調性の解析
 馬場 玄起 電力システムにおける価格信号を利用した最適点への誘導とむだ時間の影響
 山下 望 LQ エネルギー需要ネットワークに対するモデル予測型プライシング

大木 義路 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ohki/>

- 長谷川侑香 多くの高分子絶縁材料の複素誘電率特性
 細淵 柁志 テラヘルツ分光法による熱劣化ポリエチレンの評価及び量子化学計算によるその検証
 堀井 陽介 高誘電率ゲート絶縁膜材料 $YAlO_3$ および $LaAlO_3$ に与えるイオン照射の影響
 山下 幸太 導波モードセンサによる水中鉛イオンの選択的高感度検出

岡野 俊行 研究室 <http://www.okano.sci.waseda.ac.jp/>

- 辻 悠佑 温度依存的に親和性の変化するモノクローナル抗体を用いたタンパク質精製系の確立
 沼田 啓明 *Xenopus tropicalis*クリプトクロム6の同定
 佐々木貴英 ゼブラフィッシュ発生段階におけるzCRY4の解析

加藤 勇 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-profkatoken/index.html>

- 齊藤 真亮 プラズマCVD装置を用いて作製したSi系薄膜のPLとEL発光

胡桃坂 仁志 研究室 <http://www.kurumizaka.sci.waseda.ac.jp/>

- 伊能 諒平 イネ相同組換え酵素RAD51A1、RAD51A2の機能解析
 浦浜 嵩 ヒト科特異的なヒストンH3バリエーションH3.5を含むヌクレオソームの構造解析
 竹田 瑠弥 ダイヌクレオソーム-CENP-B複合体の精製系の確立
 浜中 隆俊 RAD51とRAD54の相互作用がクロマチン上における相同組換えに及ぼす影響の解析

小林 正和 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-k-labo/index.html>

- 今中 啓一 CBD法によるCdZnS薄膜の作製とCZTS太陽電池への応用
 宇留野 彩 近接昇華法によるAgGaTe2系材料の作製と太陽電池応用
 加瀬慶太郎 ナノ粒子塗布によるCu2ZnSnS4 (CZTS) 薄膜の作製および太陽電池への応用
 中須 大蔵 各種サファイア基板上ZnTe薄膜の作製と極点図法による配向性の評価

柴田 重信 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/sem-shibatasi/>

- 今西 拓麻 拘束ストレスやセロトニンシステムの変化がマウス末梢時計に与える影響
 大津 定治 週間的な高脂肪食摂取パターンと自由輪回し運動パターンがマウスの肥満に与える影響
 大西 信明 水浴による深部体温変化と時計遺伝子の発現位相の関係
 成重 青等 カフェインが概日時計の周期、振幅、位相に与える影響

宗田 孝之 研究室

- 山口 麻人 非侵襲メラノーマ診断支援装置の開発
 秋山 彩織 非侵襲的メラノーマ診断支援装置の開発:新鑑別指標の提案
 入山 友則 フェムト秒レーザーを用いた2光子励起蛍光時間分解測定による指紋顕在化
 亀山 桜里 非侵襲的脈絡膜悪性黒色腫診断支援システムの開発:予備的研究
 坂本 拓哉 酸化亜鉛を用いたDBRレーザーの室温下発振のための構造検討とポースアインシュタイン凝縮の可能性
 増田 吉弘 量子化学計算からの5,6-dihydroxyindole多量体の光吸収特性~重合度と酸化度への依存性~

高松 敦子 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/>

- 碓 周介 結合強度変動を考慮した粘菌結合振動子系の時空間パターン形成
 久本 峻平 ローカル・コンタクトによるアリの集団探索行動の最適化

- 武田 京三郎 研究室 <http://www.qms.cache.waseda.ac.jp/>
 江藤 雅高 クラウンエーテルを用いたアミノ酸キラリティー認識機構の第一原理電子論
- 林 泰弘 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/hayashi/>
 宇田川 剛 配電系統電圧制御におけるセンサ開閉器情報の取得周期に関する研究
 大坪 敦 PV連系配電系統の開閉器切替による電圧制御効果の評価
 亀田真奈人 燃料電池設置型集合住宅における住戸間電力融通を考慮した運用計画決定手法の評価
- 河野 俊介 高低圧配電系統の高速電圧計算手法に関する研究
 濃沼 翔一 住宅用燃料電池の無効電力制御による配電系統の電力品質改善効果に関する研究
- 山本 健太 PV・HP・EV設置住宅における居住者の行動パターンを考慮した電力管理手法に関する研究
- 堀越 佳治 研究室 <http://www.horikosi.elec.waseda.ac.jp/>
 小笠原祐貴 In-plane gate デバイスの静特性に関する研究
 近藤 稔 Si/SiO₂ 超格子の光学特性に関する研究
- 松本 隆 研究室 <http://www.matsumoto.elec.waseda.ac.jp/>
 井田 安俊 関係に付随する情報を考慮したInfinite Relational Modelの提案
 向野佳奈子 4-hydroxy-2-nonenalによるTDP-43の細胞内局在、凝集体形成、リン酸化の変化
- 佐藤 優太 ハイパスベクトル画像を用いたバイオメトリック個人認証
 芹澤 央子 脳波SSVEPデータ 2 値判別時のパラメータスパース性に関する考察と他人情報による判別
- 南波 寛直 Auditory Steady-State Response Classification Problem Utilizing Alpha Wave Information
- 畠山 浩輝 隠れマルコフモデルと線形回帰モデルの結合モデルを用いたスポーツ動画データに対する活況度・優勢度算出アルゴリズムの構築
- 福田 行克 Bootstrap Aggregation 導入による 安静時 NIRSデータのSTAI 値予測精度向上
- 村田 昇 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/murata/>
 有竹 俊光 スパースコーディングを用いた母基底の学習
 石田 諒 新たな直交性を用いたテンソル分解とSNS解析への応用
 越島 健介 時系列のBag-of-Dataに対する変化点検知手法の提案
 野田 淳史 ランダムウォークに基づいたグラフ構造推定

- 若尾 真治 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/>
- 伊藤 友紀 住宅負荷予測のためのJITにおけるデータベース構築手法の検討
- 植草 康二 地域エネルギー供給コスト改善に向けたエネルギーマネジメントに関する検討
- 西嶋 克哉 PVコミュニティにおける負荷平準化のためのEVバッテリー充放電制御手法の開発
- 淵野 瑞輝 連続-不連続ガラーキン併用法による磁界解析
- 安川 昇吾 鉄道信号システムにおける検知装置の大規模磁界解析に基づく高度化設計
- 吉岡 卓哉 境界積分を用いた後処理による磁界解析の高精度化に関する研究
- 渡邊 亮 研究室 <http://www.watanabe.eb.waseda.ac.jp/>
- 末木 智大 効率的なデフォッガー設計に向けた結露モデル構築とシミュレーションによる結露評価
- 西田 駿介 実際の鉄道運行スケジュールにおける乗務員スケジュールの自動作成
- 松岡 欣秀 前輪／後輪駆動車のTCSに向けた車体速度推定に基づくスリップ率推定
- 横溝 隼 LOS航路計画を用いた模型船舶の経路追従

<情報理工学専攻>

- 石川 博 研究室 <http://www.hi.cs.waseda.ac.jp/>
- 倉持 匡佐 大量の月面地形データ位置合わせ
- 小滝 将太 医用画像セグメンテーション結果の評価による最適な結果の推定
- 小林 直樹 データベースの分割を適用したパラメトリック固有空間法を用いた3回転自由度の物体に対する姿勢推定
- 鈴木 教平 Kinect を利用したAR 表示によるダンス学習支援
- プラズーン ルーカス ハイน์リヒ ダニエル
Hand pose estimation in a client server environment
- 上田 和紀 研究室 <http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/>
- 信夫 裕貴 LMNtalにおけるグラフ書換え操作のCoqによる形式化と検証
- 竹口 輝 HydLaプログラムの抽象実行によるハイブリッドシステムのモデル検査
- 宮原 和大 グラフ書換え系におけるグラフ構造の効率的な同型性判定手法
- 谷口 直輝 動的階層グラフ可視化ソフトウェアGrapheneの設計と実装
- 和田 亮 ハイブリッド制約言語HydLaの対話的実行方式の実装
- 佐々木優友 ハイブリッド制約言語HydLaのREDUCEを用いた記号実行系

- 算 捷彦 研究室 <http://www.kake.info.waseda.ac.jp/>
 伊東 一樹 日本語プログラミング言語における自然で幅広いプログラム記述法の模索
 平川 昌宏 レビューの☆の数を用いた商品推薦
- 笠原 博徳 研究室 <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp>
 田口 学豊 統計的手法を用いた並列化コンパイラ協調マルチコアアーキテクチャシミュレータ高速化手法
 古山 祐樹 携帯端末と無線基地局のためのベースバンド処理の並列化
 武藤 康平 Android/Linux ベースマルチコア上での高速化・低消費電力化およびZコンパイラ協調型スケジューラーに関する研究
- 甲藤 二郎 研究室 <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp>
 石倉 和将 シーン判別手法を組み込んだライブバージョン楽曲同定システム
 岩崎 真也 奥行き情報を用いたH.265/HEVCの2次元符号化画質改善
 糸川 高広 H.264/AVC圧縮動画像のブラインドPSNR推定
 長谷川裕俊 全方位車載カメラ画像におけるイメージモザイクキング
 松本 光広 DTN と SDR に関する評価実験
- 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp/>
 林 光一 メディアアプリケーションにおけるコンパイラを用いたI/Oタスクの自動並列化
 松本 卓司 医療画像処理の自動並列化
 山田 正平 不正侵入検知システムにおけるマルチコア上でのシグネチャ割当によるレイテンシ削減手法
 山本 翔太 SPEC OMP 2012を用いたSMPサーバの評価に関する研究
- 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp>
 池田 賢斗 OpenFlowを用いたDNSラウンドロビンによる省電力法
 坂井 哲也 ヘッダ情報の機械学習によるspamメール判別法
 鈴木 亮太 情報量を用いたWeb通信の特徴分析
 高須 雄一 ダークネット観測に基づく攻撃の時間変化の可視化
 森田 裕之 コンテンツ指向ネットワークにおけるホップ数を考慮した誘導情報配布法
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
 醍醐 成和 顔モデル学習のための特徴点ラベリングツール開発
 福地 佑介 話者照合の環境音に対する頑健性に関する調査

CHANSRIPIBOON, Praewphan

Configurable Web Interface for Elderly people

HASHURO, Muhammad Shiddiq Sayyid

A Research on Distal Renal Artery Detection to Aid Automatic Renal Artery Stenosis Diagnosis with Medical Ultrasound

小柴 康崇

部分空間法に基づく音素類似度ベクトルを用いた音声認識の検討

菅原 俊治 研究室

<http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/lab/>

浦川 一紀

階層型組織の再編成手法によるタスク割り当ての効率化と未知環境におけるリソース推定法の提案

松本 莉奈

ギガシークエンスデータの高速・高精度解析ツールの開発

RUMP, Halfdan

Modelling and analysis of a financial market with slow and fast trading agents acting on time-delayed market information

高畑 文雄 研究室

<http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>

佐藤 駿

GPS・準天頂衛星の複合測位システムにおける計算機シミュレーションと実証実験による測位精度の検証に関する研究

炭谷 翔

フェージング環境に適応するスキャタードパイロット双方向判定帰還型伝搬路推定法に関する研究

中山 正樹

LDPC 符号化OFDM 伝送における復号特性の改善に関する研究

野間 裕太

MMSE 受信アンテナ合成を用いたMU-MIMO 伝送に関する研究

戸川 望 研究室

<http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp>

赤坂 宏行

HDRアーキテクチャを対象とした多種類クロックゲーティングを用いた低電力化高位合成手法

跡部 悠太

スキャンベース攻撃及びハードウェアトロイに対するセキュア設計に関する研究

五十嵐博昭

集積回路のタイミングエラー同時検出手法とその応用に関する研究

篠田 裕太

マルチタスク型組み込みシステムの低消費電力化設計に関する研究

藤代 美佳

暗号集積回路に対するスキャンベース攻撃に関する研究

中島 達夫 研究室

<http://www.dcl.cs.waseda.ac.jp/>

岸 将大

HMDを用いたGoogle Street View体験システムの提案

佐久間裕之

モーションビデオゲームにおける視点および振動がプレイヤーに与える影響についての研究

関 慎太郎

ROI型AR：複数のマーカーを利用した自由度の高いARシステムの提案

CHYE, Connsynn

An Exergame for Encouraging Martial Arts

CHEN, Han

A Fashion Recommendation System Based on The Wisdom of Crowds

- 平出 聡 学生論文共有システム
 安川 要平 Visual Bucket List を用いた Project-based Learning の提案
- 深澤 良彰 研究室 <http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/>
 杉内 一也 ガイドラインに基づいたGUIの構築支援に関する研究
- 前原 文明 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-maehara/>
 王 霄 無線ネットワークを用いた位置推定技術の特性に関する研究
 長田 弦 SC-FDEへの判定帰還型伝搬路推定法の適用に関する研究
- 松山 泰男 研究室 <http://www.wiz.cs.waseda.ac.jp/>
 正沢道太郎 脳血流情報を用いた認証システム
 堀江 輝樹 トピックモデルによる語義推定課題に対する教師なし学習法の研究
 三田寺隼人 構造方程式モデリングによるヒト遺伝子の発現制御ネットワーク推定
 森脇 雅史 時系列情報を考慮した類似動画検索
- 山名 早人 研究室 <http://www.yama.info.waseda.ac.jp/>
 奥谷 貴志 メンション情報を利用したTwitterユーザプロフィール推定
 駒田 康孝 商品評価ツイートからの属性語自動抽出手法の提案
 鈴木 大地 ストレージ性能を考慮したDBMSクエリのコストモデル最適化と実装
 苑田 翔吾 認知心理学的記憶調査に基づく記憶支援システムの構築
 田中 友樹 オンライン広告の効果改善を目的としたユーザ分類手法の提案と評価
 手塚 渉太 携帯端末に適用可能なモーシオンブラー警告システム
- 鷺崎 弘宜 研究室 www.washi.cs.waseda.ac.jp
 青井 翔平 DePoT: Webアプリケーションテストにおけるテストコード自動生成
 テスティングフレームワーク
 新井 慧 ゲーミフィケーションを用いたバグパターンによる欠陥除去の促進
 伊永 祥太 How do variations of personal characteristics affect educational
 effectiveness on software intensive systems development ?
 角谷 将司 ネットワーク分析結果を用いたソフトウェアパターン集合の有用性の
 判断
 津田 直彦 Evaluating Structural Validity of Class Diagrams by Measuring the
 Number of Highly Responsible Classes

＜電子光システム学専攻＞

- 池永 剛 研究室 <http://www.waseda.jp/semi-ikenaga/index.html>
- 北尾雄一郎 車載機器向けHCIのための動き特徴量と追跡を用いた手輪郭補正と指の長さの2段階閾値に基づくクリック動作検出
- 鈴木 貴大 Spatio-temporal Feature Based Keypoint of Interest and Real-time Hardware Implementation for Cloud Video Recognition
- 三上 洋平 角度変化と上下振動に基づく予測・尤度モデルを導入したパーティクルフィルタによる自転車後方確認支援向け追跡手法
-
- 宇高 勝之 研究室 <http://faculty.web.waseda.ac.jp/utaka/>
- 伊藤 大樹 リング共振器装荷2連続列マツェンダー型光フィルタの検討
- 纈纈 博岐 InAlGaAs/InAlAs半導体高速光スイッチの多段化・高速化に関する研究
- 塚本健太郎 シリコン交差導波路反射光スイッチの研究
- 福田 晃士 CNT埋め込みスロット導波路の作製と非線形特性の研究
- 松下明日香 InAs/InAlGaAs多重積層量子ドットの組成混合とSOAとの集積デバイス化の研究
- リュウイン 低温チップ直接接合の高強度接合化の検討
-
- 木村 晋二 研究室
- 糸井 優大 最大フロー最小カット定理に基づく不揮発状態保存回路の低電力化に関する研究
- 関根 翔 ハミング符号に基づくAESのSEU訂正可能回路の設計とエラーシミュレーションに関する研究
-
- 後藤 敏 研究室 <http://www.f.waseda.jp/goto/>
- 梅崎 裕利 画像分割手法を用いたクロッピング映像配信方式の研究
- 前川英梨衣 H.264/AVCにおける圧縮領域での移動物体追跡と人数計測の研究
-
- 小山 泰正 研究室 <http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/>
- 児島健太郎 強相関電子系 $\text{Ca}_{1-x}\text{Pr}_x\text{MnO}_3$ における電荷軌道整列状態の特徴
- 小端 洋平 強相関電子系 $\text{Ca}_{1-x}\text{La}_x\text{MnO}_3$ の低組成域における結晶学的特徴
- 立石 純大 混晶系強誘電体PSN-PTでの高PT組成域における強誘電相の特徴
- 千葉 友貴 混晶系強誘電体PMN-PTでの強誘電正方晶相の検討
- 仲山 啓 三次元準結晶の密度波モデルによる検討
- 渡辺 順也 配位多面体T構造と三次元準結晶との結晶学的相関

伊藤 岳 Al-Ni-Fe合金における金属間化合物相の結晶学的相関

齋藤 良行 研究室

内田 純 アニオンドーブを行った二酸化チタンの電子状態のハイブリッド法による予測

谷井 孝至 研究室 <http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>

井上 あゆ 埋込型ナノ導波路を用いた1分子蛍光イメージング法の開発

熊谷 国憲 電界効果トランジスタのチャネル不純物準位を介した電子輸送の実験的評価

坂口 雄紀 低エネルギーイオン照射による細胞活性制御への基礎的検討

日向野 駿 ナノスリット基板を用いた神経細胞の蛍光イメージングに関する研究

益田 顕太郎 有機シラン単分子膜パターン基板を用いた緑茶カテキンの接着抑制効果の評価に関する研究

森田 麻裕 マイクロパターン基板上の微小神経回路における自発的神経活動に関する研究

山内 圭介 免震建物の損傷評価のための層間変位センサシステムの開発

松本 充司 研究室

神部 光 FSOを用いたIEEE802.11n信号伝送の品質評価

中川 剛 RoFSOの家屋引き込み線利用に関する研究

堀田 翔 光無線通信の追尾機能による信号捕捉方法の検討

柳澤 政生 研究室 <http://www.yanagi.cs.waseda.ac.jp/>

今中 修平 圧電効果による発電を対象としたMPPT制御を用いる電力変換回路に関する研究

谷口 寛彰 故障差分解析に耐性を持つAES暗号回路設計に関する研究

那須 敏裕 三次元集積回路の実装におけるTSV配置の最適化に関する研究— Motion Estimationプロセッサの三次元実装—

若林 賢 加速度センサを用いた会話場推定手法に関する研究

山中 由也 研究室 <http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/>

大坪 竜也 Bose-Hubbard 模型に対する拡張Gutzwiller近似

片山 雄裕 拡張Lagrange法による数値計算の高速化

山本 知之 研究室 <http://www.cms.sci.waseda.ac.jp/>

稲葉 雄大 $RE_{1-x}Ca_xMnO_3$ (RE = La, Sm) におけるMnの電子状態解析

岡田啓太郎 X線をプローブとする分光分析におけるチャージアップの自発的帯電

補償機構の研究

- 新垣 宜大 無機フォトクロミック物質BaMgSiO₄:Feの電子状態解析
 布谷 光希 Yを共添加したCa₂SnO₄: (Eu, Er) における微量希土類元素の局所環境解析
 林 勇輝 RE_{1-x}AE_xCoO_{3-δ} (RE = La, Pr, AE = Sr, Ba) の電子状態解析
 藪田 裕太 MgSiO₃の結晶構造相転移圧力に及ぼす微量金属元素の影響

渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>

- 出澤 義人 モーションキャプチャを用いた飛翔昆虫型ロボットの羽ばたき運動解析
 今井 裕也 EMC/MD法による非対称チャネル中のキャリア輸送に関する研究
 清水 嘉泰 飛翔型ロボットの傾き推定を目的としたロボットビジョンに関する研究

<ナノ理工学専攻>

川原田 洋 研究室 <http://www.kawarada-lab.com/>

- 稲葉 優文 カーボンナノチューブ/シリコンカーバイド系における電気特性
 宇都宮大起 ダイヤモンド上にヘテロエピタキシャル成長したAlN層の結晶性評価
 大長 央 原子層堆積 (ALD) 法によるAl₂O₃膜を用いた水素終端ダイヤモンド表面のパッシベーション
 成尾 智也 Al₂O₃ゲート絶縁膜を用いた水素終端ダイヤモンドMOSFETの高温動作特性及び耐電圧特性
 横山 悠樹 エピタキシャルAlN/ダイヤモンド構造の電気特性

庄子 習一 研究室 <http://www.shoji.comm.waseda.ac.jp/>

- 岡田愛姫子 UVナノインプリントにより作製したSiO₂ナノパターンマスクを用いた低転位GaNテンプレート基板
 沼宮内 聡 デジタル化学合成のためのサイズベースマルチ液滴ソーティングデバイス
 長谷川賢太 多相液滴アッセンブリーを用いたオンデマンド型マイクロレンズアレイの作製法の研究
 廣瀬 智渉 単一細胞解析を目的としたアガロースゲルマイクロカプセル生成に関する研究
 船橋 翼 木質系炭素材料を用いた電気二重層キャパシタ用機能性電極の開発
 三松 隼太 3次元実装のための金属微粒子材料を用いた低温接合と貫通電極形成

渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>

- 鹿浜 康寛 ナノワイヤ型ショットキー障壁トンネルFETの電気特性に関する研究
 青木 直成 Si, C, O三元素混在系原子間ポテンシャルの開発

- 栗山 亮 分子動力学法によるhigh-k/SiO₂界面の電気的ダイポール層形成に関する研究
- 桑原 猛 逆起電圧を用いた飛翔昆虫型ロボットのセンサレス制御に関する研究
- 山下 広樹 ナノワイヤ型トンネルFETの電気特性とシリサイド形成プロセスに関する研究

<数学応用数理解専攻>

大石 進一 研究室

- 菊井 知美 Laplace作用素の固有値評価を用いた2D形状認識と応用
- 倉本 和浩 異なる角度から撮った写真による3次元体の計算
- 中村祐太郎 成分毎評価を用いた逆行列に対する精度保証法
- 田中 一成 Studies on Two Types of Constants for Verified Computation of Solution to Partial Differential Equations and Their Estimation
- 小室 和範 最近点丸めを用いた区間連立一次方程式の精度保証付き数値計算

柏木 雅英 研究室

- 松本 匠 精度保証付き数値計算を用いた非線形連立方程式の全解探索において解が区間の境界と重なる問題について
- 浅岡 大貴 最近点丸めのみが使用可能な状況においての方向付き丸めの浮動小数点演算エミュレーション
- 栗原 悟 積分領域の設定並びに刻み幅の違いによる二重積分の解の精度の違いについて
- 田中 悠哉 Lobachevsky関数の精度保証法
- 南部 圭佑 刻み幅の自動調節による数値積分の精度保証について

<表現工学専攻>

- 及川 靖広 研究室 <http://www.acoust.rise.waseda.ac.jp>
- 阿部 耕平 スマートフォンを用いたサイン音の検知
- 芹澤 賢明 楽音を用いた音場評価手法に関する検討
- 中村 康祐 分散配置した4つのマイクロホンによる音源位置推定
- 矢田部浩平 物理法則に基づいた光学的可視化音場の復元
- 山部 薫 光音響スピーカ

- 山崎 芳男 研究室 <http://www.acoust.rise.waseda.ac.jp/>
- 金本 貴徳 パラメトリックスピーカの最適駆動に関する研究

卒業おめでとうございます <学部>

<電気・情報生命工学科>

- 石山 敦士 研究室 <http://www.super.elec.waseda.ac.jp/>
 野村 聡 池田 愛花 今市 洋平 大木 隆広 菊池 龍
 辻 義明 松見 絢子 持田 歩
- 井上 宏子 研究室 http://www.eb.waseda.ac.jp/h_inoue/
 森近 奨 平賀隆太郎 宇恵野雄貴 中村絵梨香 西川 淳
 吉村 侑樹
- 井上 真郷 研究室 http://www.eb.waseda.ac.jp/m_inoue/
 大迫 翔 小川 将史 鎌田 庸裕 蒲原由里加 菅野 郁子
 北川 寛明 虞 琦 小梅 祐多 中村 司
- 岩崎 秀雄 研究室 <http://www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki/>
 馬橋 博大 諸石 和馬 砂川 大輔 田島 光盛 中島 慧
- 岩本 伸一 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/>
 鈴木 雄斗 伊藤 孝将 大谷 崇人 小林淳之介 近藤あさ美
 森 優太 トランイアンドレブンブナン
- 内田 健康 研究室 <http://www.uchi.elec.waseda.ac.jp/>
 高浜 基嗣 山口 浩司 鶴殿 和暉 押切 律之 小泉 智宏
 高松 克明 細田 康介 松井 駿 綿屋 翔平
- 大木 義路 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ohki/>
 井筒 智之 北村 文乃 黒田 千愛 佐藤洸太郎 滝花 純也
 陳 東京 針間 正幸
- 岡野 俊行 研究室 <http://www.okano.sci.waseda.ac.jp/>
 笹目 祐 阿部 大輝 小西 和希 近藤 慎吾 佐藤 駿
 品川 敬哉 玉澤 歩実 蓮沼 佑太
- 加藤 勇 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-profkatoken/index.html>
 田川 譲 熊崎 悠 小林 亘 豊田 航也 河へーミン
 原 晃一
- 胡桃坂 仁志 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/kurumizaka/>
 足立風水也 下向 真代 鈴木 佑弥 西山 友貴 平山恵美子
 藤田 理紗 村越 大夢
- 小林 正和 研究室 <http://www.waseda.ac.jp/sem-k-labo/index.html>
 井上 朋大 梅嶋 悠人 風見 露乃 竹田 裕二 服部 翔太
 細淵雄一郎 山崎 修平

柴田 重信 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/semi.shibatasa/				
井澤 佑斗	石川 亮佑	金子 麻倫	菊池 耀介	北川 絵理	
佐々木裕之	白石 卓也	坪坂 美来			
宗田 孝之 研究室					
梅澤 侑磨	大和 隆生	村上 耕平	石澤 直弘	大野 亮一	
奥山功太郎	片桐 孝太	齋藤 雅輝	吉野 恭司		
高松 敦子 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/				
山岸 良輔	小野 恭吾	木村 拓	齋藤 拓	辻 喬	
豊田 悟史					
武田 京三郎 研究室	http://www.qms.cache.waseda.ac.jp/				
梅村 定典	木島 智紀	西澤 学			
林 泰弘 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/hayashi/				
小林 信平	赤木 覚	榎本 恭平	加藤 瑠奈	高橋 諒	
竹延 祐二	古屋 成悟	丸山 弘貴			
堀越 佳治 研究室	http://www.horikoshi.elec.waseda.ac.jp				
浦部 宏之	倉本 真	小林 祐輝	中野 朋洋	前田 理也	
増田 光洋					
松本 隆 研究室	http://www.matsumoto.elec.waseda.ac.jp/				
関口 覚	中村 堯	市川 和俊	小笠原光貴	深谷 美実	
測田 悠子	北條 佑樹	横井 創磨			
村田 昇 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/murata/				
飯塚 裕彦	朱 馨瑞	金田 有紀	小林 芽依	高野 健	
千葉 智暁	増田 晋吾	吉川 裕樹			
若尾 真治 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/				
衣袋 尚人	加藤 丈弘	黒岩 浩人	後藤 駿介	高木 尚子	
塚本 恵実	山寄 朋秀	笠 健悟			
渡邊 亮 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/watanabe/				
大野 玲	青木 敬太	五十嵐 守	河邊 裕大	川和田達也	
高橋 大樹	堤 昌寛	宝珠山和博			

<情報理工学科、コンピュータ・ネットワーク工学科*>

石川 博 研究室	http://hi.cs.waseda.ac.jp/				
石井 智大	岩野 俊介	神田 庸平	森田 皆人	市川 祥子	
富樫 陸					
上田 和紀 研究室	http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/				
赤池 和喜	伊藤 剛史	奈良 耕太	若槻 祐彰	和田 努	
7ディカリアビナス	大沼田俊一	岡松 宏幸	福室 嶺	与那嶺 卓	

- 算 捷彦 研究室 <http://www.kake.info.waseda.ac.jp/index.html>
 島野 浩史 岡野 和徳 富山 涼平 村山 聖和
 笠原 博徳 研究室 <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp>
 奥村万里子 柴崎 大侑 鈴木 貴広 田中 優利 矢吹 潤
 北川 隆介 康 申一 安永 和処
 甲藤 二郎 研究室 <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp>
 青木 大樹 石津 裕也 大石皓太郎 折橋 翔太 萩原 秀一
 家令 悠斗 瀧山 稜太 関澤 量人
 亀山 涉 研究室
 三木 亮祐 篠田 亮祐 田原 有 石黒 真人
 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp>
 飯塚 修平 影浦 直人 ギ へ 福意 大智 和気 珠実
 小松 裕樹 出浦 佑樹 當間 裕理
 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/>
 青木 一樹 小崎 頌太 志村 正樹 高橋 一基 武部 嵩礼
 池西 大起 渡邊 雄二 奥村 大樹
 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
 小本 勇貴 高津 弘明 竹田 圭吾 森岡 幹 市川 樹
 茹 天天 星野 達哉 小林 淳樹
 佐藤 拓朗 研究室
 宮本 貴弘
 嶋本 薫 研究室
 川端 萌美 稲垣沙津紀 林 里紗
 菅原 俊治 研究室 <http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/lab/>
 大淵 敬寛 齋藤 健吾 洪澤 亮介 杉山 歩未 宮下 裕貴
 芝 夢乃 袖田茉衣子
 高畑 文雄 研究室 <http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp>
 今村 和樹 白戸 諒 玉田 裕子 山上 智大 横山 拓郎
 志村 涼 宮田 光 竹田 弘昂
 田中 良明 研究室 <http://www.tanaka.giti.waseda.ac.jp>
 須藤 晃史
 戸川 望 研究室 <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>
 大屋 優 蔣 慧倩 竹田 健吾 藤原 晃一 吉田慎之介
 岩澤 学 寺田晃太郎 五十嵐啓太
 中里 秀則 研究室
 張川 景文
 中島 達夫 研究室 <http://www.dcl.cs.waseda.ac.jp/>
 磯嶋 光春 浦川 翔馬 齋藤 択光 二宗 素紀 三浦 大幸
 藤門 泰永 細田 優介 バレズヘルナンデズ ダニエル

朴 容震 研究室	http://www.aoni.waseda.jp/yjpark/profile.html			
金子 大希	岩根 亮	北吉 春貴	酒井 暁史	
深澤 良彰 研究室	http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/			
相澤 和也	須藤 一輝	松澤 岬	芳澤 正敏	伊藤麻菜美
吉井 優大	竹尾 正馬	小野寺崇夫*		
前原 文明 研究室	http://www.waseda.jp/sem-maehara/			
天堤 拓郎	氏原 圭亮	丸小 倫己	三原 寛高	
松山 泰男 研究室	http://www.wiz.cs.waseda.ac.jp/			
今井 哲	岩瀬 弘道	鹿野 晶滉	杉原 啓太	藤本 裕介
小檜 彩乃	陳 端吾			
森 達哉 研究室	http://nsl.cs.waseda.ac.jp/			
江畑 樹	笹生 憲	竹越 健斗	藤野 朗稚	渡邊 卓弥
長山 雅之	豊 慶太			
山名 早人 研究室	http://www.yama.info.waseda.ac.jp/			
上里 和也	王 チン	畠山 恭明	林 佑磨	吉岡 重紀
志知 友代	中里 拓哉	浜田健太郎		
鷺崎 弘宜 研究室	http://www.washi.cs.waseda.ac.jp			
小林 純一	小堀 貴信	杉本 元気	津村 耕司	中井 秀矩
山田 佑輔	丹羽 俊介	音森 一輝		
渡辺 裕 研究室				
石上 諒	高藤 芽	柳澤 秀彰		
社会文化領域				
小野裕希子	重藤 暁			

<電子光システム学科>

宇高 勝之 研究室	http://faculty.web.waseda.ac.jp/utaka/			
金井 優豊	黒田 康彰	嶋田 裕介	武井 勇樹	永井 秀樹
山田佐代子	横井 裕人			
川原田 洋 研究室	http://www.kawarada-lab.com/			
蔭浦 泰資	許トクシン	車 一宏	小林 幹典	鈴木 和真
瀬下 裕志	山田 哲也			
小山 泰正 研究室	http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/			
井下 匠	栗原 大知	後藤 崇将	小松崎 巧	白谷あゆみ
越後 陽亮	星野 伸明			
齊藤 良行 研究室	http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/			
池田 悠馬	黒田茉莉子	松本 恭平	宮本 龍寿	大野 優
別所凜太郎	糸川 卓志	丸茂 稜太		

庄子 習一 研究室	http://www.shoji.comm.waseda.ac.jp				
井口 彩香	大山 真輝	金子 祐史	桑江 博之	高野 正範	
山田 晋也	須藤 健成				
谷井 孝至 研究室	http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/				
榊田 昂歳	小池 悟大	小林 孝行	小室 雅春	坂本 留実	
関根 浩平	千葉 悠貴	石原 広識			
松本 充司 研究室					
川村 唯樹	安田 直矢	劉 明磊			
柳澤 政生 研究室	http://www.yanagi.cs.waseda.ac.jp/				
加藤 亮太	後藤 智哉	小山 遼太	櫻井 貴文	鈴木 大渡	
高柳 尚士	服部 崇史	福留 祐治	坂本 幸	平野 大輔	
山中 由也 研究室	http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/				
大関 浩平	川口 拓磨	永井 康裕	横山 大	吉岡 良	
劉 安キ					
山本 知之 研究室					
石井 峻	岩田 亮	内田 潤一	加瀬 絢也	兼本 章義	
田口健太郎	樽井 健司	西山 洋子	前木 和	森谷 真帆	
渡邊 孝信 研究室	http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/				
秋山 隼哉	阿久津梨花	今津 研太	志村 昂亮	ソン セイ	
高橋 隆介	武井 康平	深沢 太郎			

<応用数理学科>

大石 進一 研究室					
野田 ふみ	上條 寛司	中村 紀翔	野澤 優介	上野 貴美	
槇友 佳里	吉井平八郎	米本茉莉恵	浅井 敏之*		

<表現工学科>

及川 靖広 研究室	http://www.acoust.rise.waseda.ac.jp				
今井 亮太	久世 大	作田奈緒子	佐藤 生康	田村 有希	
正木菜生子					
山崎 芳男 研究室	http://www.acoust.rise.waseda.ac.jp				
石川 憲治	木村 知世	鈴木 絢子	保田 速人	山口 明子	

2013年度博士号取得者

() 内は指導教員

《 2013年度 電気・情報生命専攻 》

- 市川 雄一 (胡桃坂仁志) クロマチン構造の形成におけるテロメアDNA配列の影響に関する研究
- 堀越 直樹 (胡桃坂仁志) クロマチンの動態制御に重要なヒストンH2A.Zヌクレオソームの構造解析
- 梅谷 実樹 (岩崎 秀雄) 藍色細菌の概日転写・翻訳リズムの特性に関する研究
- 久保田拓也 (渡邊 亮) マルチゾーン自動車空調システムに対するモデルベース制御系設計
- 香山 治彦 (石山 敦士) ガス遮断器の開閉極位相制御における最適開閉極位相に関する研究

《 2013年度 情報理工専攻 》

- 持永 大 (後藤 滋樹) ネットワークの内部情報の開示に基づく効率的な通信の研究
- 劉 野楓 (中島 達夫) クラウドコンピューティングとクラウドソーシングを利用したパーソナル知識管理
- 山岸 和久 (甲藤 二郎) 映像通信の品質推定法に関する研究
- Yasir ALDOSARY (笠原 博徳) マルチプレイヤーゲームの自動並列化と電力削減に関する研究
- 宮島 崇浩 (小林 哲則) コミュニケーションメディアにおける表現力の測定の研究
- 方 春 (山名 早人) タンパク質の配列を用いた昨日部位の予測
- 林 宗翰 (中島 達夫) マルチコア組込みシステムのための仮想化プラットフォームにおけるハイブリッドOS環境に関する研究
- 李 寧 (中島 達夫) 組込みシステムのためのローカルメモリを用いたオペレーティングシステムのための仮想化技術を利用した監視システムの提案
- 島田 裕正 (中島 達夫)
- 李 昇周 (戸川 望) ハイブリッドかつ階層的なオンチップネットワークに関する研究
- 福嶋 正機 (後藤 滋樹) インターネットの性能評価と管理に関する研究
- 泉川 晴紀 (甲藤 二郎) ユーザ視点に基づくモバイルネットワークに関する研究
- 松尾 康孝 (甲藤 二郎) 超高精細映像の映像方式変換とその応用に関する研究

《 2013年度 電子光システム学専攻 》

田中 啓仁 (宇高 勝之) Study on Dispersion-Managed High-Speed WDM Transmission Technologies in Optical Submarine Cable Systems
光海底ケーブルシステムにおける分散マネジメント高速WDM伝送技術に関する研究

《 2012年度 ナノ理工学専攻 》

井上 智喜 (山中 由也) Analysis of Mott insulator transition for ultracold atomic system in optical lattice
光学格子中の冷却原子に対するMott絶縁体相転移の解析

<受賞・褒章> お知らせのあったものを掲載しています。(順不同)

◇2013年受賞

荻野 和郎 (1964通信科卒)	旭日中綬章
情報理工学専攻 山名研究室 修士2年 井上 雅翔 修士1年 苑田 翔吾、手塚 涉太 学部4年 和田 なぎさ	電子情報通信学会学生 プレゼンテーション賞
情報理工学専攻 山名研究室 博士1年 浅井 洋樹	電子情報通信学会 優秀インタラクティブ賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 中村 薫	電気学会東京支部 電気学術奨励賞
電気・情報生命工学科 松本研究室 学部4年 金山 龍平	電子情報通信学会 ポスター優秀賞
電気・情報生命工学科 柴田研究室 学部4年 原口 敦嗣 学部4年 池田 祐子	日本生理学会 若手研究者賞
電気・情報生命専攻 井上真郷研究室 修士2年 小野 司寿加	IEEE CIS日本支部 Young Researcher Award
電気・情報生命専攻 小林研究室 修士1年 薄井 綾香	電気学会 電気学術女性活動奨励賞
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 大木 義路	電気学会 著作賞
電気・情報生命専攻 渡邊研究室 博士3年 久保田 拓也	計測自動制御学会 制御部門研究奨励賞

情報理工学専攻 中島研究室 博士 1 年 坂本 瑞希	The 6th International Conference on Advances in Computer-Human Interactions 最優秀論文賞
電気・情報生命工学科 大木研究室 学部 4 年 (現修士 1 年) 冨手 直人	電気学会 東京支部電気学術奨励賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士 2 年 (現博士 1 年) 小松 麻理奈	2012 IEEE DEIS Japan Chapter Best Paper Presentation Award
情報理工学専攻 中島研究室 博士 3 年 劉野 楓	22nd International World Wide Web Conference 2013最優秀学生論文賞
情報理工学専攻 笠原研究室 博士 1 年 岸本 耀平	16th IEEE Symposium on Low-Power and High-Speed Chips (COOL CHIPS XVI) Best Feature Award
情報理工学科/情報理工学専攻 小林研究室 教授 小林 哲則 助手 松山 洋一 修士 2 年 齋藤 彰弘 学部 4 年 秋葉 巖、渡邊 萌実	人工知能学会2012年度人工知能学会研究会 優秀賞ならびに Outstanding research Award, Human Agent Interaction Symposium 2012
情報理工学科 鷺崎研究室 学部 4 年 加藤 史也	情報処理学会推奨卒業論文認定
情報理工学科 岩本研究室 修士 1 年 川浦 裕貴	電気学会 電力・エネルギー部門 YPC優秀発表賞
情報理工学科 岩本研究室 修士 1 年 安藤 翔、栗田 悠、小見 拓也 鈴木 淑子	電気学会 電力・エネルギー部門 YPC優秀発表賞
電気・情報生命専攻 柴田研究室 助手 田原 優	in vivo イメージングフォーラム 2013ポスター発表ユーザー賞
情報理工専攻 前原研究室 博士 2 年 竹淵 翔矢	IEEE VTS Japan 2013 Young Researcher's Encouragement Award
情報理工専攻 菅原研究室 修士 2 年 浦川 一紀	International Conference on Innovative Computing Technology, Best Paper Award
電子光システム学専攻 木村・柳澤研究室 修士 2 年 関根 翔	電子情報通信学会・第25回回路とシステム ワークショップ奨励賞
電子光システム学専攻 谷井研究室 修士 1 年 河野 翔	2013年度 第74回応用物理学会 秋季学術講演会Poster Award
電気・情報生命専攻 林研究室 修士 1 年 喜久里 浩之	電気学会 電力・エネルギー部門大会 優秀論文発表A賞

電気・情報生命専攻 林研究室 修士1年 喜久里浩之、庄司智昭	電気学会 電力・エネルギー部門大会 YPC優秀発表賞
電気・情報生命専攻 林研究室 修士1年 菊地元太、大久保直樹 三好龍之介、山本祐也	電気学会 電力・エネルギー部門大会 YPC奨励賞
電気・情報生命専攻 小林研究室 修士2年 宇留野 彩、中須 大蔵	第16回II-VI族化合物国際会議 II-VI 2013 最優秀学生発表賞
電気・情報生命専攻 胡桃坂研究室 助教 越阪部 晃永 博士3年 堀越 直樹 修士2年 有村 泰宏	第86回日本生化学会 「鈴木紘一メモリアル賞」
情報理工学科 准教授 森 達哉	マルウェア対策研究 人材育成ワークショップ 優秀論文賞
情報理工学科 森研究室 学部4年 藤野 朗稚	コンピュータセキュリティシンポジウム 学生論文賞
情報理工学専攻 笠原研究室 博士1年 梅田 弾	情報処理学会組み込みシステムシンポジウム 2013 奨励賞
情報理工学科 森研究室 学部4年 笹生 憲、竹越健斗、藤野朗稚	情報処理学会 MWS Cup 2013 総合優勝 MWS Cup 2013 FFRI 賞 IWSEC Cup 2013 The Silver Prize
情報理工学科/情報理工学専攻 教授 後藤滋樹	第10回 情報セキュリティ文化賞
情報理工学専攻 後藤研究室 修士1年 佐藤 亮、永井信弘、古岡達也 学部4年 志村正樹、高橋一基、武部嵩礼	情報処理学会 MWS Cup 2013 総合優勝 MWS Cup 2013 FFRI 賞 IWSEC Cup 2013 The Silver Prize
表現工学科/表現工学専攻 教授 山崎 芳男、及川 靖広 修士2年 阿部 耕平	経済産業省 DCEXpo2013 Innovative Technologies 2013
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 中村 薫、藤原 彩	IEEE PES Japan Chapter 学生優秀論文賞 2013
表現工学科/表現工学専攻 及川研究室 修士2年 矢田部 浩平 学部4年 田村 有希	日本音響学会・学生優秀発表賞
情報理工学専攻 戸川研究室 博士2年 多和田 雅師	電子情報通信学会/情報処理学会・ デザインガイア2013・デザインガイアポス ター賞
情報理工学科 山名研究室 学部4年 上里 和也	情報処理学会・データベースシステム研究 会学生奨励賞

情報理工学専攻 上田研究室 修士1年 小沼 賢、安田 竜、吉田 健人	アカリクVALUATOR学生のための アプリ開発コンテスト第2位
情報理工学専攻 上田研究室 修士2年 宮原 和太	日本ソフトウェア科学会・日本ソフトウェア科学会第30回大会学生奨励賞
表現工学科 及川研究室 教授 及川 靖広 情報理工学専攻 博士3年 小森 智康	電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ・ ヒューマンコミュニケーション賞 (HC賞)
情報理工学専攻 前原研究室 修士1年 仁木 麻美子	The 10th IEEE Tokyo Young Researchers Workshop Sponsor Award (Japan Radio Co. Award)
情報理工学専攻 中島研究室 博士3年 林 宗翰	The 10th IEEE International Conference on Embedded Software and Systems 最優秀論文賞
電子光システム学専攻 小山研究室 修士1年 佐藤 兆樹、花岡 武宏	本金属学会第21回 優秀ポスター賞
情報理工学専攻 笠原研究室 博士1年 梅田 弾	電子情報通信学会 集積回路研究会 研究会優秀若手講演賞
電気・情報生命専攻 内田研究室 修士2年 島田 実季	第56回自動制御連合講演会 優秀発表賞
情報理工学専攻 戸川研究室 修士2年 跡部 悠太	第26回 回路とシステムワークショップ 奨励賞
情報理工学専攻 戸川研究室 修士2年 五十嵐 博昭	電子情報通信学会/情報処理学会・デザイン ガイア2013・SLDM研究会優秀発表学生賞
電気・情報生命専攻 石山研究室 修士1年 佐藤 勇輔	電気学会 優秀論文発表A賞
ナノ理工学専攻 渡邊研究室 博士2年 図師 知文	応用物理学会 薄膜・表面物理分科会・シリ コンテクノロジー分科会共催特別研究会 「ゲートスタック研究会 一材料・プロセス・ 評価の物理」(第19回研究会) 服部賞
情報理工学専攻 鷺崎研究室 修士1年 土屋 良介	電気科学技術奨励学生賞 17th International Software Product Line Conference
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士2年 長谷川 侑香	2013年度放電学会年次大会 若手優秀ポスター発表賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 博士2年 森本 貴明	2013年度放電学会年次大会 優秀論文発表賞

2013年度就職状況

2013年度 電子光システム学科・専攻、ナノ理工学専攻 (電子光システム系) の就職状況について

電子光システム学科／電子光システム学専攻 教授 柳澤 政生



2007年4月に理工が再編され、電子光システム学科が誕生しました。今年度は2008年に入学した第2期生が修士2年となり、十数名の学部生とともに就職活動を行いました。当学科・専攻として2回目の本格的な就職活動になります。当学科・専攻を企業の方々に知っていただくために、2009年12月(第1期生が学部卒で就職活動する直前)、ならびに、2011年12月(第1期生が修士修了で就職活動する直前)に企業の方々をお招きして、学科・専攻説明会と懇談会を開催しました。これらの説明会を開催するにあたっては、それぞれ、600社以上に開催案内、学科・専攻パンフレット等を郵送しました。これが広報となり、昨年度は先輩の他学科・専攻に見劣りしない、多くの求人票を企業の皆さんから頂戴できたと思います。さらに多くの企業の方々に知っていただくために、2012年10月に、まだ、お付き合いいただいていない約100社に学科・専攻パンフレット等を郵送しました。これで広報活動は一段落できたと考えています。

今回の就職活動は、2011年の東日本大震災の影響も消え、「広報活動は12月1日から」と日本経済団体連合会が定めた「採用選考に関する企業の倫理憲章」も浸透し、混乱もなく、順調であったと思います(昨年度に関する詳細は、昨年の会報2013年3月号をご覧ください)。12月になると堰を切ったように、企業が活発に活動を始めたのは昨年度と同様でした。

当学科・専攻では、2012年12月に学生対象の就職ガイダンスを開催し、就職活動に関する説明を行いました。また、当学科・専攻用の就職情報web(通称、小原システム。小原君が柳澤研究室の学生だったときにボランティアで開発してくれたシステムが基となっている)を立ち上げ、就職情報を掲示したり、学生の

希望調査、集計に活用しました。2013年2月にはEWE活性化委員会が主催する「EWE先輩と学生との交流会」に参加し、多くの先輩から企業情報をご提供いただいたのは非常に効果的であったと思います。このころから、学生と面談し始め、学科・専攻内の調整作業を行いました。面談では、1. 就活は「お見合い」（片思いではダメ）、2. 就活は団体競技（情報の共有、文系志望でも仲間、推薦でも自由応募でも仲間）、3. 推薦の有無に拘らず、本当にしたい仕事を（10年後、20年後の自分をイメージする）、4. 就活は正直に、5. 面接の練習は必須、といったことを話していました。

結果的には、先手先手の早期対応が功を奏し、学生は頑張り、当学科・専攻の就職活動は非常に良好に実施されたと考えています。このとき、学生の就職活動をご支援、ご協力いただいた連絡事務室の稲葉さん、就職情報webをメンテナンスしてくださった垣内さん、ならびに、当研究室の学生の皆さんに感謝します。

就職する学生諸君は4月から各職場で、大学生活で苦勞して習得した知識、経験、能力を十分に発揮して、活躍されることを期待しています。就職活動を通じて、卒業生のありがたさがわかったことと思います。卒業・修了後はEWEの正会員として、EWEの活動に協力し、後輩を導くことは必須なことと認識してほしいと思います。

企業の皆様には、学生へのご対応、ならびに、私との濃密な情報交換や相談にご対応いただき感謝申し上げますとともに、引き続き、来年度もお付き合いの程、よろしく願い申し上げます。

就職活動において、本学のOB／OGのサポートは非常に有効に機能していると実感しています。最後になりましたが、EWEの「企業見学会」、「EWE先輩と学生との交流会」などの種々の活動に深く感謝申し上げます。

今年度の就職活動を振り返って

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 岡野 俊行



電気・情報生命工学科は、学部定員145名ですが、この2014年3月の卒業を目指して卒業研究に取り組んできた学生は、149名となります。そのうち、学部で就職する学生は29名（19%）、大学院修士課程に進学してひきつづき研究を行う学生が118名（79%）となっております（2%は未定）。大学院進学者は9割以上が、所属する研究室への進学であり、本学他専攻・他大学への進学は5名を予定しています。このように、学部卒業生の大多数が電気・情報生命専攻へ進学するという傾向は、ここ数年ほとんど変化がありません。学部で就職する学生29名の内訳を業種別に見ると、情報通信サービス・ソフトウェア関連の企業が1／3で最も多く、その他、金融・商社・コンサルティング、機械・重工、総合電機メーカーから公務員まで幅広く分布しています。学部での就職先も従来の傾向と大きく変化はありませんでした。

一方、この春に大学院修士課程を卒業する学生数は80名強と、例年より大幅に少なくなっています。これは、リーマンショックから続く不況や2011年の震災等の要素が重なったため、この学年で特異的に進学者が少なかったことに起因しています。例年は100名以上が修士を卒業し、博士課程進学を除いた9割以上が就職しています。今年度の修士を卒業して就職する学生74名の就職先の業界分布は、情報通信サービス・ソフトウェア関連が14%と最も高い割合ですが、総合電機メーカー（12%）、コンピュータ・情報機器（10%）、機械・重工（9%）、金融・コンサルティング（9%）、医薬・化学・食品（8%）、鉄道・航空、電力・エネルギー（7%）、以下公務員等、学部卒業生の就職先と比べ、さらに幅広い分野に分散している傾向があります。特に、学部生に比べて医薬・化学・食品（8%）の割合が高いのは、より専門性が必要とされる当該業界の特質と考えられます。人数は少ないものの、業界分布は例年と大きく変化はありませんでした。

EWEに所属される多くの諸先輩方のご活躍のお陰で、本学科・本専攻には、毎年非常に多くの企業様より学科・専攻を指定した学校推薦のご依頼（学科推薦）をいただいています。就職活動の多様化に伴い、年々微減の傾向はありますが、

本年度も250社を超える企業よりご依頼を頂き、1社あたり平均2名としても500名以上の枠をいただいていることとなります。一方で、ご承知の通り、近年では、推薦とはいっても厳しい面接を課されることが多く、推薦状があっても不合格となるケースが散見されます。このことは、学生の立場からみると、一度しかない就職活動の期間に、推薦のみに期待して活動するにはリスクが高いということになります。就職活動は、社会に出るにあたっての必要なマナーや常識を身につけるには良い機会ですが、必然的に、自由応募で多数の企業とのコンタクトにかなりの労力を割かれることになり、結果として、推薦応募のメリットを生かすことなく内定を確保する学生が増えています。実際、修士を卒業して就職する学生のうち40名以上は自由応募で内定を確保しており、残る30名あまりから、内々定と引き換えに推薦書を発行する、いわゆる後付け推薦や、ジョブマッチング制度を除くと、純粹の学校推薦枠にて就職する学生は、全体の1/3に満たないというのが現状です。しかしながら、今後の景気の動向によっては、採用数の増加に伴って、推薦を利用して学生を確実に確保しようという企業が増加し、推薦の合格率が上昇することで、再び学校推薦が見直されるようになることも考えられます。

今年度の活動を見ていて、個人的な印象として、昨年度同様、あるいはそれ以上に、学生にとって厳しい戦線だったように感じました。これまで1年あまりにわたり、多様な業界の就職関係の方々とお話する機会をいただき、多くの企業が、学力や語学力よりもコミュニケーション力や意欲を重視して選考を行っていることが印象的でした。実際に、苦戦している一部の学生さんの面談を通し、少子化のため家族内での会話が減っているのか、携帯ゲームの普及等により幼少時から集団で遊ぶ経験に乏しい学生が多いのかなど、考えさせられました。研究室での平素の学生指導では、研究力やプレゼン力の育成に力を入れているものの、コミュニケーション力や意欲は、学生さん自身の素養に依存する部分が多く、今後どのようにして高めて行くかというのは、社会全体として取り組むべき重要な問題ではないかと感じます。

EWEの活性化委員の方々には、EWE先輩と学生との交流会を開催いただいておりますが、現在就職活動中の学生さん向けに2013年は12月に開催いただきました。時期的にも非常に好評だったと企業の方々からも声が届いております。本学科・専攻は、現在の学科構成となってから10年を数えました。卒業生が次々と研究室を訪れるたびに、素晴らしい研究成果を残した学生だけでなく、試行錯誤に苦勞した学生も含め、学生時代とは見違えるように(?)立派に活躍している姿に本学科・専攻の学生のポテンシャルの高さを感じる昨今です。この春、本学科・専攻から社会に巣立つ諸君には、今後の飛躍を期待しつつ、OB・OGの皆様には、卒業生に向け益々のご支援をお願い申し上げる次第です。

情報理工学専攻および情報理工学科学生の進路状況と就職・採用活動の最近の傾向

情報理工学科／情報理工専攻 就職指導担当 教授

上田 和紀、高畑 文雄、前原 文明



早稲田大学の電気・情報系学科がほぼ現在の体制になってから10年が経過しました。その間、学生の志望にも企業の採用にも徐々に変化が現れてきているように感じます。以下、本年度の進路状況と、就職担当からみた所感を述べたいと思います。

1. 在籍学生の進路状況



本稿執筆時点で、学部4年生以上の卒業予定者（昨年9月卒業者を含む）は154名、修士課程の修了予定者（昨年9月修了者および博士飛び級進学2名を含む）は71名となっています。

学部卒業予定者のうち105名は大学院（他大学大学院5名を含む）進学予定で、進学率は68%です。修士課程からは飛び級を含み3名が博士課程に進学します。博士を目指す学生の増加は以前からの課題ですが、社会人や外国人学生を含めると、計47名（昨年9月修了者を含む）が博士課程に在籍しています。



就職希望者の中には卒業後に公務員を目指すものも若干名いますが、民間企業志望者はすでにほぼ100%の学生が内定を取得しています。

2. 志望企業の傾向

本稿執筆時点での内定先の分布は以下のようになっています。

a. メーカー系（*）	31%	f. 金融，保険，商社	4%
b. 情報通信事業者系（*）	22%	g. 放送，メディア	4%
c. ウェブ，ソーシャルネットワーク，ゲーム	21%	h. 国家公務員	1%
d. 情報サービス企業	6%	i. その他（運輸，衣食，セキュリティ）	6%
e. 広告，不動産	5%		

（*）系列の情報サービス産業を含む

少数の特定企業に志望が集中する傾向は以前ほど顕著ではなくなり、志望先にも内定先にも広がりが見られるようになりました。

最近目立ってきたのは、ウェブ、SNS、モバイルゲーム、オンラインショップなどのインターネットビジネス企業の増加です。今回は、情報サービス産業をひとくくりにせず、メーカー系や情報通信事業者系のIT企業をそれぞれの系列に分類したのですが、インターネットビジネス企業はそれらと肩を並べる人数を占め、独立系や金融系等のITソリューション企業を大きく上回ることになりました。

NTTグループをはじめとする情報通信事業者は、これまでと同様、多くの学生が志望企業の上位に挙げています。メーカー系の志望者は、募集人数の減少とともにここ数年漸減傾向にありましたが、今回は一定の歯止めがかかった感があります。

気になるのは、研究開発を志す学生の減少です。研究開発部門の求人枠が以前と比べて少なくなったのは確かですが、研究開発を志す者はそれ以上に減ってきています。共同研究から人材の流動まで、主要企業との産学交流の多くが研究開発部門を通じて行われていることを考えると気がかりな点であります。

3. 選考の時期とプロセス

学生の志望を見ると、選考がスピーディで内々定が早く出る会社に志望者が集まり、4月に入ってからの選考のステップが多く長い会社は敬遠される傾向がより顕著になってきました。

大学推薦による本選考は4月から始まりますが、大多数の企業が見学会や事前面談を3月までに実施しています。この段階での企業と学生との接触の形態は、各企業が経団連倫理憲章をどう解釈しているかによってさまざまですが、いずれにせよ志望者の人物像は年度明け前から企業に伝わってゆきます。この言わば「お見合い」は以前よりも盛んになってきており、本選考の効率化に寄与しているように感じます。

一方、自由応募による選考も、以前と比べると迅速化してきました。これまで、選考ステップが少なく合否が早期に出ることが学校推薦選考の利点と考えられてきましたが、最近では、学校推薦企業に興味をもつ学生が、相当有力な自由応募企業の内定を先に取得する事例も多く出ています。自由応募選考の効率化は歓迎すべきことですが、これに伴い、推薦選考制度のメリットや進め方を企業と大学とが連携して考え直す時期に来ているように思います。

2013年度 就職先一覧

企業名	人数	企業名	人数
【ア 行】		オフィス303	1
アーサー・デイ・リトル (ジャパン)	1	オリンパスメディカルシステムズ	1
IHI	1		
irep	1	【カ 行】	
accenture	1	花王	1
Acroquest Technology	1	川崎市	1
朝日新聞社	1	関西電力	2
Arcadia Soft Asian	1	キーエンス	2
アルファシステムズ	1	キヤノン	5
イーステム	1	キヤノンソフトウェア	1
イーソル	1	教育測定研究所	1
いえらぶGROUP	1	きんでん	1
茨城県厚生農業協同組合	1	金融庁	1
イビデン	1	KDDI	4
Imperial College London	1	敬倫塾	1
ABBジャパン	1	国際石油開発帝石	1
SAPジャパン	1	コスモ	2
NHKメディアテクノロジー	1	コニカミノルタ	1
NSSLCサービス	1	小松製作所	1
NTT	6		
NTTコミュニケーションズ	6	【サ 行】	
NTTコムウェア	1	埼玉県公立中学校教員	1
NTTデータ	5	サイバーエージェント	3
NTTデータエンジニアリングシステムズ	1	財務省財務局	1
NTTドコモ	2	三波工業	1
NTT東日本	7	CIJネクスト	1
沖電気工業	1	JR東日本情報システム	1

企業名	人数	企業名	人数
JVCケンウッド	1	鉄道情報システム	1
JFEスチール	1	寺岡精工	1
システムサポート	1	電源開発	2
シャープ	2	デンソー	1
シユアデザインズ	1	電通	1
首都高速道路	1	電力中央研究所	1
新エネルギー・産業技術総合開発機構	1	東海旅客鉄道	2
新日鉄住金ソリューションズ	2	東京海上日動火災保険	1
スズキ	1	東京ガス	1
Speee	1	東北電力	1
住友商事	1	東京地下鉄	1
総務省	1	東京電力	1
ソニー	4	東京都庁	1
ソニーモバイルコミュニケーションズ	1	東芝ソリューション	2
ソフトバンク	4	東芝三菱電機産業システム	2
ソフトバンクモバイル	4	東洋エンジニアリング	1
		東京ガス	1
【タ 行】		トヨタ自動車	4
大正製薬	1	豊田自動織機	1
大日本印刷	3	トラステック	1
大日本スクリーン製造	1	取手市役所	1
タイムインターメディア	1	ドワンゴ	1
大和証券	1		
大和総研	1	【ナ 行】	
DeNA	5	長崎県警察	1
TIS	1	ナショナルソフトウェア	1
TBSテレビ	1	西日本旅客鉄道	1
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム	1	日揮	2
デジタルガレージ	1	日産自動車	1

企業名	人数	企業名	人数
日本オクラロ	1	富士通	6
日本経済新聞社	1	富士通ゼネラル	1
日本航空	1	富士通システムズ・イースト	1
日本ヒューレット・パッカー	2	富士電機	1
日本総合研究所	1	富士フイルム	1
日本たばこ産業	1	平和国際特許事務所	1
日本電気	2	ベネッセコーポレーション	1
日本放送協会	4	ボーダーズ	1
日本ユニシス	1	北陸電力	1
任天堂	1	VOYAGE GROUP	1
ネットワンシステムズ	1	ポリフォニーデジタル	1
野村総合研究所	5	本田技研工業	1
		富士重工業	1
【ハ 行】		ビタミンアイファクトリ	1
パナソニック	4		
パナソニックITS	1	【マ 行】	
パナソニックシステムネットワークス	1	ミクシィ	1
ビーコン コミュニケーションズ	1	三井化学	1
ビジネステクノクラフツ	1	三菱重工業	1
日立国際電気	1	三菱電機	6
日立システムズ	3	三菱電機照明	1
日立製作所	5	三菱電機情報ネットワーク	1
日立製作所 情報・通信システム	1	三菱東京UFJ銀行	1
日立ソリューションズ	1	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	1
P&G Japan	1	日本ユニシス	1
ビジネステクノクラフツ	1	宮地商会	1
ファーストヴィレッジ	1	メディアシーク	1
富士重工業	1		
富士ゼロックス	1		

企業名	人数
【ヤ 行】	
YasuLab	1
ヤフー	2
横河電機	1
【ラ 行】	
楽天株式	2

企業名	人数
リクルート・ホールディングス	2
リクルートキャリア	1
リコー	3
レパスト	1
ローデ・シュワルツ・ジャパン	1
ローム	2

2013年度評議員委嘱状況

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1944	理工学部 電気通信学科	宮沢 治平	1957	第1理工学部 電気工学科	後藤 昭方
1947	専門部 工科電気通信科	黒澤 龍平	1957	第1理工学部 電気通信学科	幕田 健
1947	理工学部 電気通信学科	赤松 正也	1957	第2理工学部 電気工学科	土屋 篤
1949	専門部 工科電気科	糸野 繁夫	1957	工業高等学校 電気科	堀内 恒憲
1949	専門部 工科電気通信科	進藤 純男	1958	第1理工学部 電気工学科	野口 尚宏
1950	理工学部 電気工学科	榎本 立巳	1958	第1理工学部 電気通信学科	厚東 健彦
1951	理工学部 電気工学科	野原 和夫	1958	第2理工学部 電気工学科	深澤 眞一
1951	理工学部 電気通信学科	南 敏	1958	工業高等学校 電気科	中川 正則
1949	第1理工学部 電気工学科	大村長太郎	1959	第1理工学部 電気工学科	浅村 皓
1951	第1理工学部 電気通信学科	小原 啓義	1959	第1理工学部 電気通信学科	駒田 和民
1952	第1理工学部 電気工学科	依田 文吉	1959	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	中村 仁士
1952	第1理工学部 電気通信学科	中山 元泰	1960	第1理工学部 電気工学科	大島 弘義
1953	第1理工学部 電気通信学科	加藤 利雄	1960	第1理工学部 電気通信学科	下村 尚久
1953	第2理工学部 電気工学科	松元 崇	1961	第1理工学部 電気工学科	倉田 哲也
1954	第1理工学部 電気工学科	榊原 精一	1961	第1理工学部 電気通信学科	長谷川豊明
1954	第1理工学部 電気通信学科	田尻 利重	1962	第1理工学部 電気工学科	嘉山 長興
1954	第2理工学部 電気工学科	入江 宣夫	1962	第1理工学部 電気通信学科	竹村 裕夫
1955	第1理工学部 電気工学科	龍田 幹雄	1963	第1理工学部 電気工学科	小松雄一郎
1955	第1理工学部 電気通信学科	高村 真司	1963	第1理工学部 電気通信学科	田中 良一
1955	第2理工学部 電気工学科	宮崎 滋水	1964	第1理工学部 電気工学科	田中博一郎
1956	第1理工学部 電気工学科	根木 誠	1964	第1理工学部 電気工学科	内藤 紀明
1956	第1理工学部 電気通信学科	桑原 守二	1964	第1理工学部 電気通信学科	瀧本 幸男
1956	第2理工学部 電気工学科	中野 光倫	1964	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	福井 常忠
1957	第1理工学部 電気工学科	神林 昇	1965	第1理工学部 電気工学科	小泉金之助

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1965	第1理工学部 電気通信学科	本間 勝	1977	理工学部 電子通信学科	
1966	第1理工学部 電気工学科	小林 昭夫	1978	理工学部 電気工学科	川勝 裕之
1966	第1理工学部 電気通信学科	杉原 鉄夫	1978	理工学部 電子通信学科	北野 昌宏
1967	第1理工学部 電気工学科	井上 哲郎	1979	理工学部 電気工学科	森 啓之
1967	第1理工学部 電気通信学科	大島 英男	1979	理工学部 電子通信学科	
1968	第1理工学部 電気工学科	横山 隆一	1980	理工学部 電気工学科	笠原 博徳
1968	第1理工学部 電気通信学科	高垣 孝	1980	理工学部 電子通信学科	宇田川重雄
1969	理工学部 電気工学科	橋本 栄二	1980	理工学部 電子通信学科	滝川好比郎
1969	理工学部 電気通信学科	佐藤 祐介	1981	理工学部 電気工学科	長沢 可也
1970	理工学部 電気工学科	佐藤 増雄	1981	理工学部 電子通信学科	森村 実
1970	理工学部 電気通信学科		1982	理工学部 電気工学科	齋藤 則生
1971	理工学部 電気工学科	草間 晴夫	1982	理工学部 電子通信学科	清水 眞
1971	理工学部 電気通信学科	町山 晃	1983	理工学部 電気工学科	小林 正和
1972	理工学部 電気工学科	木村 裕恒	1983	理工学部 電子通信学科	
1972	理工学部 電気通信学科	小川 豊	1984	理工学部 電気工学科	宮部 潤
1973	理工学部 電気工学科	斎藤 涼夫	1984	理工学部 電子通信学科	小沼 和夫
1973	理工学部 電気通信学科	武藤 信夫	1985	理工学部 電気工学科	菅野 和男
1974	理工学部 電気工学科	小野 治	1985	理工学部 電気工学科	寺本 哲
1974	理工学部 電気工学科	島田健夫三	1985	理工学部 電子通信学科	中村 寛
1974	理工学部 電気通信学科	花澤 隆	1986	理工学部 電気工学科	占部 博信
1975	理工学部 電気工学科	佐藤 勝雄	1986	理工学部 電子通信学科	
1975	理工学部 電気通信学科	酒井 富夫	1986	大学院電気工学専攻	原 洋
1976	理工学部 電気工学科	中谷 義昭	1987	理工学部 電気工学科	丸山 和茂
1976	理工学部 電子通信学科	宇高 勝之	1987	理工学部 電子通信学科	阿野 茂浩
1977	理工学部 電気工学科	乾 昭文	1988	理工学部 電気工学科	工藤 眞

卒年／学部・学科	氏名
1988 理工学部 電子通信学科	
1989 理工学部 電気工学科	林 泰弘
1989 理工学部 電子通信学科	
1990 理工学部 電気工学科	田中 貞嗣
1990 理工学部 電子通信学科	
1991 理工学部 電気工学科	西野 弘昭
1991 理工学部 電子通信学科	
1992 理工学部 電気工学科	江口 弘
1992 理工学部 電子通信学科	
1993 理工学部 電気工学科	太田 昌人
1993 理工学部 電子通信学科	井上 雅広
1994 理工学部 電気工学科	佐藤 環
1994 理工学部 電子通信学科	
1995 理工学部 電気工学科	豊島 成彦
1995 理工学部 電気工学科	春山 智
1995 理工学部 電子通信学科	山田 智紀
1995 理工学部 情報学科	西松 研
1996 理工学部 電気工学科	吉澤 正克
1996 理工学部 電子通信学科	千脇 隆
1996 理工学部 情報学科	村山 和宏
1997 理工学部 電気電子情報工学科	佐藤 和幸
1997 理工学部 電子通信学科	菊地 俊介
1997 理工学部 情報学科	笥 一彦
1998 理工学部 電気電子情報工学科	大井 祐子
1998 理工学部 電子・情報通信学科	茂垣 武文

卒年／学部・学科	氏名
1998 理工学部 情報学科	園田 智也
1999 理工学部 電気電子情報工学科	勝田 喬雄
1999 理工学部 電子・情報通信学科	
1999 理工学部 情報学科	秋岡 明香
2000 理工学部 電気電子情報工学科	田中 毅
2000 理工学部 電子・情報通信学科	宮澤 敏記
2000 理工学部 情報学科	宮島 崇浩
2001 理工学部 電気電子情報工学科	伊藤 俊秀
2001 理工学部 電子・情報通信学科	
2001 理工学部 情報学科	
2002 理工学部 電気電子情報工学科	金子 大作
2002 理工学部 電子・情報通信学科	
2002 理工学部 情報学科	堀井 洋
2003 理工学部 電気電子情報工学科	布施 則一
2003 理工学部 電子・情報通信学科	
2003 理工学部 情報学科	蛭田 智則
2004 理工学部 電気電子情報工学科	深澤 知憲
2004 理工学部 電子・情報通信学科	
2004 理工学部 情報学科	平手 勇宇
2005 理工学部 電気電子情報工学科	田中 秀郷
2005 理工学部 電気電子情報工学科	菊間 俊明
2005 理工学部 情報学科	木村 浩章
2006 理工学部 電気電子情報工学科	
2006 理工学部 電子・情報通信学科	
2006 理工学部 情報学科	鈴木 幹也

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
2007	理工学部 電気・情報生命工学科	立石 拓也	2012	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高山 俊樹
2007	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	村松 裕介	2012	先進理工学部 電気・情報生命工学科	室伏 勇
2008	理工学部 電気・情報生命工学科	夏井 正嗣	2012	基幹理工学部 情報理工学科	赤坂 宏行
2008	理工学部 電気・情報生命工学科	彦坂 早紀	2012	基幹理工学部 電子光システム学科	松下明日香
2008	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	藍田 尚吾	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	相場 貴之
2009	理工学部 電気・情報生命工学科	白土 聡	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	薄井 綾香
2010	理工学部 電気・情報生命工学科	佐藤 博亮	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	古井三誉子
2010	理工学部 電気・情報生命工学科	蓬田 裕菜	2013	基幹理工学部 情報理工学科	高橋 翔平
2010	大学院先進理工学部 電気・情報生命専攻	上條 秀一	2013	基幹理工学部 電子光システム学科	施 凱齡
2010	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	安川 要平	2013	基幹理工学部 電子光システム学科	橋口 誠広
2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科	難波 裕	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	川和田達也
2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科	廣瀬 雄一	2014	基幹理工学部 情報理工学科	丸小 倫己
2011	基幹理工学部 情報理工学科	石塚 祥	2014	基幹理工学部 電子光システム学科	高野 正範
2011	基幹理工学部 電子光システム学科	藪 翔平	2014	基幹理工学部 電子光システム学科	秋山 隼哉

* 空欄の評議員を募集しています。評議員を交替された場合は事務局までお知らせください。

2013年度終身会費納入者一覧

鯛 美子	1988	電通	福田 真啓	2009	電生	渡邊 亮	1995	電博
木村 三郎	1949	電気	清水 亮	1969	電気	志賀 徹也	1970	電気
矢田 健一	1970	電通	鈴木 芳男	1976	電気	高橋 克征	2008	C S
山岸 俊浩	1994	電通	竹鼻 始	1972	電気	北川 慎治	1993	電気
佐々木 聡	2010	電生						

◇賛助会員

加藤 溥夫 1966 電気 江口 直也 1978 電気 手塚 典雄 1951 電気

◇サポート費ご協力ありがとうございました。

柳川 幸市 1958 電気 北野 昌宏 1978 電通 埜 五郎 1941 電気
 藤井 英雄 1964 電気 草間 晴夫 1971 電気 尾崎 肇 1962 電気

◇お悔やみ申し上げます。(2013年度にお知らせいただいた訃報を掲載しております)

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
堀 俊雄	1951	電通	2013年2月11日	安藤 治男	1945	電通	2012年5月14日
藤本 純	1954	電気	2012年9月14日	天野 清	1947	電気	2013年5月7日
細舘 昌	1949	電気	2013年1月7日	鶴田 孝磨	1952	電気	2013年5月16日
小林 暢夫	1960	電専修	2011年	木村 壮三	1941	電気	2011年4月14日
佐久間正之	1943	電気	2012年9月10日	水上 俊郎	1944	電気	不明
高橋 晃	1947	電気	2012年4月26日	吉原 健治	1942	専電通	2011年11月12日
坂本 力	1950	電通	2013年3月3日	大須賀 肇	1951	電気	不明
松原 正久	1959	電通	2012年5月1日	山崎 雅男	1954	電気	2011年4月1日
藤沢 成徳	1951	電気	2013年3月31日	塚本 淑朗	1954	電気	2012年5月1日
中摩 雅年	1944	電通	2012年7月18日	片山 善朗	1971	電気	不明
尾崎 一夫	1955	電気	2012年	田中寿実夫	1971	電気	不明
篠 富士己	1952	電気	2012年10月1日	小松 隆次	1946	電気	2013年9月14日
松田 文夫	1964	電専修	2013年1月17日	福田千太郎	1951	電通	2012年7月4日
北川 昭生	1951	電通	2012年12月18日	本田 顕	1945	専電気	2013年7月18日
牧山 武一	1960	電通	2011年9月7日	平田 滋昭	1975	電通	2013年9月22日
高橋 禮子	1978	産専修	2012年6月1日	高橋 泰司	1975	電通	2012年8月8日
土井 陳在	1953	電気	2012年10月1日	石田 芳	1963	電気	2013年4月1日
戸田 勝彦	1962	電気	2013年3月1日	鈴木 地平	1952	電気	2013年10月17日
白井 三郎	1943	電気	2013年3月24日	田中 正則	1958	電気	2013年12月12日
大月 千秋	1942	電気	2012年10月7日	松田 和長	1951	電通	2013年5月16日
橋本 吉郎	1956	電通	2013年4月12日	藤田 雄五	1947	電通	2014年1月19日

愛称「EWE」について

1994年11月版EWEニュース15号より

「EWE」は早稲田電気工学会の略称として会員の間で広く使用されている。さて、この「EWE」なる名称は何から出来たのだろうか、そのルーツを遡ってみる。

そもそも早稲田電気工学会が設立されたのは、明治45年7月（1912年）電気科第1回生（21名）が卒業したその時である。初代会長は当時電気科科长であった浅野応輔氏が就任された。

電気工学会は大正2年（1913年）には早くも早稲田電気工学会報を発刊している。これは早大における学会機関紙の嚆矢であった。その後、早稲田電気工学雑誌（月刊）と改題され、昭和2年5月（1927年）8巻5号には「The Journal of The Electrotechnical Society of Waseda」と初めて英文名が付けられている。

電気工学会の英文名「The Waseda Electrotechnical Society」はこれによるものと思われる。ちなみに電気工学会規則第1条は「(名称) 本会は早稲田電気工学と称し、英文名を「The Waseda Electrotechnical Society」とし、略称をEWEとする」と定めている。ここで正式に「EWE」なる名称が登場する。

実はこの「EWE」の名称はかなり以前から学生の間で使用されていた。昭和2年（1927年）電気工学会に学生部会が誕生した。これは当時1年生で学生委員をしておられた川島喜蔵氏および谷鹿光治氏（昭5年卒）（両氏とも早稲田大学名誉評議員）が中心になって結成したものである。このときこの学生部会の英名を「The Waseda Electrical Engineering Department」とし、略称を「EWE」と定めたとのこと。当時学内の運動部やサークルではこのような略称を付ける事がはやっていたと、川島先輩に伺った。

現在広く使われ、親しまれている「EWE」の原点はどうやらここにあると考えられる。

（資料 川島喜蔵氏談、早稲田電気工学会雑誌、電気工学会沿革）

表紙デザイン

表紙は昨年11月10日にご講演いただいた早大政治経済学術院教授でコンピュータ将棋協会会長の瀧澤武信先生からご提供いただきました。

第2回電王戦での三浦棋士（現9段）とGPS将棋の対戦の一場面です。

編集後記

十数年前に卒業して以降、学会や共同研究などの研究活動を通じて大学の先生方や学生と交流する機会が多少はあったものの、これらの機会は現在所属している会社での業務の一環としてのものでした。そのため、大変恥ずかしながらEWEがどのような組織で、どのような活動を行ってきたのか、昨年度まではほとんど認識しておりませんでした。

そんな私が、ひよんなきっかけで今年度からEWE理事（編集委員）を仰せつかり、EWEの運営の一端を担わせていただくこととなりました。そして、西早稲田キャンパス（という呼称にも「大久保キャンパス」の頃に学生時代を過ごした私には未だに違和感があり…）で開催される理事会への参加を通じ、EWEが日々の学内の活動や大学OBとの橋渡しなどにおいてさまざまな活動を行っていることを知り、改めてEWEという組織が果たしてきた役割の重要性を理解しているところです。

このEWE会報は、そんなEWEの活動の一端を会員の皆様にご紹介する手段の一つとして制作し、お届けしています。本年度のEWE活動がこの会報のみで十分伝えられるものではありませんが、会員の皆様におかれましてはぜひご一読の上、ご意見をいただければ幸いです。

EWE理事会の場では、最近のEWE活動の活性化（直接的には会員向けサービスの向上や、会員登録の促進など）が直近の課題として話題にのぼっています。これらの課題につきましては、私自身の昨年度までの認識不足を反省しながら、EWEの魅力をより多くの方に発信するために、何ができるかについて考え、実践できればと考えています。会員の皆様には引き続きご助言等をいただくとともに、非会員向けの情報発信についてご協力をお願いできればと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

（編集担当理事：帆足啓一郎）

早稲田電気工学会会報

第 55 号

2014年 3月24日 発行

発行所 〒169-8555

東京都新宿区大久保 3 - 4 - 1

早稲田大学西早稲田キャンパス内

早稲田電気工学会 事務局

電話：03-3203-4141 内線73-5221

03-3232-9768 (FAX兼用)

郵便振替口座 00140-4-23500

URL <http://www.ewe.or.jp/>

E-mail jimukyoku@ewe.or.jp

©早稲田電気工学会 2014